

2021（令和3）年度 事業計画書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

2021 年度事業計画目次

	ページ
◆ 法 人	1
成年後見制度活用推進	18
神戸聖隷歴史資料館	19
◆ 但馬地区	
平生園	21
わらしべ	25
さくらの苑	28
恵生園	32
真生園	36
和生園	41
北但広域療育センター	46
エスポワールこじか	50
◆ 神戸地区	
神戸聖生園	54
グループホームせいれいやまて	58
グループホームたいのはた東	61
神戸愛生園	64
きたすま障害者相談支援センター	68
神戸聖隷総合相談センター	72
神戸友生園	76
グループホーム南落合	80
神戸光生園	82
グループホームみなみたもん	86
グループホームふくだ	88
神戸明生園	90
ケアホームきたすま	94
神戸市立ワークセンターひょうご	96
しごとサポート中部	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者雇用就業・定着拡大推進事業	
グループホームアリエッタ北須磨	100
ひょうご障害者相談支援センター	103
神戸市障害者基幹相談支援センター	
神戸市発達障害者中部相談窓口	
ひょうごデイサービスセンター	108
神戸市立自立センターひょうご	113
ワークセンターわかまつ	117
せいれいやさかだい	120
グループホームのぞみ	126
◆ 事業計画別表 1 (実績目標)	129
◆ 事業計画別表 2 (設備整備計画)	131

2021年度 事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
理事長 水野 雄二

「確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。」(箴言23:18)

はじめに

2020年度は神戸聖隷福祉事業団(以下、「神戸聖隷」と表記)も、予想しえないコロナ禍の1年を過ごしました。緊急事態宣言下にあっても、社会に欠くことのできない機関として、各施設は細心の感染予防を施して事業を継続してきました。その中で、予定していた事業計画のすべてを実施することはできませんでしたが、新たにリモート会議やテレワーク、ロボットやICTを活用した業務遂行や支援活動を通して、新しいワークスタイルを試み、実践してきた一年でもありました。

社会福祉を取り巻く環境は、コロナウイルスに関わらず、人口変動の激しい潮流の中で大きく変わろうとしています。少子高齢化の一層の前進、地域共生社会実現への増大する期待、法人財政の不安定化、年々厳しさの増す人材確保など、全国の社会福祉法人に共通する大きな課題を認識しつつ、私たちの地域に暮らす人々により良い福祉サービスを提供するために、神戸聖隷は各施設での福祉事業を中心に新しい年度の歩みを進めようとしています。

2021年度、コロナ禍が未だに終息せず「Withコロナ」のあり様が求められる中、神戸聖隷は創業50年の2025年を見据えつつ推進する第4期中期計画(2020~2022年度)の第2年目を迎えます。その推進のために設置された6つの部会を中心に各施設においても第4期中期計画に掲げられた事業を進めてきました。その成果として、本年度より須磨区友が丘に建設された「神戸聖隷オアシス」内で新たな事業がスタートし、重度知的障害者のためのグループホーム「のぞみ」、地域貢献活動として「TUNAGARI~あつまり処」がオープンします。また、朝来市竹田に建設された「めぐみ」では、新たにグループホームと放課後等デイサービスが開所します。それぞれに地域福祉への貢献が期待されます。本年度も中期計画初年度を継承し、修正しつつ、目標達成を目指していきます。

神戸聖隷の働きを担う人材の確保と養成は今なお大きな課題です。コロナ禍も相まって、2020年度も新採用の活動には苦悩し、新規人材の確保は不十分に終わりました。また、職員養成も集合することが困難な中、リモート活用への変更や中止を余儀なくされ、十分な研修の機会を提供することができませんでした。一方、多くの職員が働き甲斐を持って仕事に喜びを感じる職場作りに更なる努力が必要です。「働き方改革」への対応も順次整ってきていますが、更に前進していきます。

コロナ禍が続く世界、日本、地域社会にあって、多くの人々が今なお、コロナウイルスへの恐怖や不安を持ち続けています。その中で、神戸聖隷もまた、「誰一人取り残されない」社会を目指して多くの人々に勇気や元気、楽しさを提供する機関でありたいと願います。誰にでも確かに未来はあって、それぞれの希望が断たれることはない、と励まし合えるコミュニティの一員でありたいと願っています。

第4期中期計画の2か年度目として

中期事業目標① 創業50年に向けて、神戸聖隷ミッションの深く広い浸透をめざします

理念理解定着部会担当

水野 雄二

2017年度から活動を開始した理念理解定着部会を推進役として、法人の基本理念の浸透と定着を目標に事業を進めています。2020年度は第4期中期計画の初年度としての歩みを始めましたが、コロナ禍の中、他法人理念研修とタイでの海外研修を実施することができませんでした。しかし、その中でも取り組んだ活動について2021年度も積極的に継続し、更に進めていきます。キリスト教に基づく基本理念について、分かりやすさ、親しみやすさを求め、基本理念の唱和、年間聖句の掲示などと共に「神戸聖隷ハンドブック」第2版の活用を更に促進します。

また、関係する多くの方々に基本理念に触れていただく機会を増やすと共に、職員に向けては理念の神髄に触れる機会としての研修の場を多く設定します。コロナウイルス感染状況を判断の上、4回目となる他法人での理念研修やタイ・チェンマイでの海外研修を実施し、参加者にはインパクトのある学びの場を提供します。

来る2025年度の創業50年を念頭に、歴史資料の収集を継続します。創業に関わった先人のインタビュー記録の収集、また職員やご利用者から支援活動を通して心に残った特別なマイストーリーインタビュー記録の収集を通して、法人理念に触れ、また考える機会とすると共に、職員への研修ツールとしての活用も図っていきます。そのインタビューで語られるストーリーの根底に法人理念への豊かなコミットメントがあると確信します。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を日常的に考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるように、2021年度も法人全体として理念浸透に向けての多様なアプローチを続けていきます。

第4期中期計画と推進策（理念理解定着部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
<p>体感する機会を創出し、提供する。 キリスト教価値観と出会い、親しみ、</p>	<p>分かりやすさ、親しみやすさを求め、日常化を推進</p>	基本理念の掲示、唱和推奨	全施設での掲示、唱和
		年間聖句の掲示	全施設での掲示
		法人マスコットキャラクターの活用	活用パターンの周知
	研修や集会でのツール作成	神戸聖隷ハンドブック活用	第2版の活用アンケートの実施と分析
	幅広い関係者を対象とした理念表出	理念講演会の開催	講演会の実施
<p>各種の理念研修を企画し、実施する。</p>	<p>初級職員や臨時職員を念頭に置いた研修</p>	各施設での理念研修協力	3-5施設で実施
		キリスト教福祉基礎研修実施	但馬、神戸で実施
	<p>キリスト教主義の他法人理念研修【社会福祉充実計画4】</p>	他法人理念研修の開催	神戸（9月）、浜松（1月）に実施・新規他法人研修実施（コロナウイルス感染状況で開催可否を判断）
	<p>海外での理念研修【社会福祉充実計画3】</p>	タイでの海外研修の開催	タイ・チェンマイで実施（11月）（コロナウイルス感染状況で開催可否を判断）
<p>創業50年に向けた新しい時代への対応を試みる。</p>	職員報の継続発行	職員報作成継続とデータ保存・活用化	年2回の刊行（8月、3月）
	<p>創業50年を念頭に置いた史料収集</p>	創業者インタビューの保存	年2-3人の収集
		神戸聖隷My story収集	My story収集（インタビュー）継続
	海外研修将来検討	新規海外研修の研究	実施要項の検討、準備

第4期中期計画の2か年度目として

中期事業目標② 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

職員育成推進部担当

有川 洋司

職員育成推進部は以下の4つの基本方針をもって取り組みます。

- ① 福祉人材の確保に努め、将来を担う職員を育成します。
- ② 各推進部と協働して内部研修を企画実施し、体系化します。
- ③ Web会議システムの活用に取り組みます。
- ④ 自主的な外部研修と介護福祉士に係る実務者研修費用の助成を啓発します。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により学校訪問、企業説明会、採用試験、職員研修などあらゆる面で従来のリアルな方法での実施が困難となりそれぞれの取り組みに大きな影響があった一年でした。反面、その状況での試行錯誤によって様々なシステムを活用したオンラインでの取り組みが拡大した一年でもありました。今年度についても新型コロナウイルスの感染拡大の状況は未だ不透明ではありますが、職員育成推進部が実施する様々な取り組みについて引き続き感染拡大防止に留意しながら状況や内容に応じてリアルとオンラインを併用した取り組みを進めていきます。

福祉人材の確保については、従来からお付き合いのあった学校はもちろんのことこれまでお付き合いのなかった学校などの新規開拓についても積極的にいき、より多くの学校との関係構築に努めます。また、直接の訪問が可能な状況であった場合は各施設からの協力を得てそれぞれの学校の出身職員の同行による訪問活動を行い、学生に対し親近感に繋がるよう取り組みます。また、就職フェアなどの就活者と出会う機会については対面、オンライン等実施方法を問わず積極的に参加します。採用サイトについても昨年までのマイナビに加えリクナビやキャリアタス UCの有償版などを活用し、より多くの学生と繋がる状況を作ります。また、福祉系の学生が就職先としての施設を選択する際に実習時の体験や印象などが大きく影響を与えることを踏まえ、より丁寧な実習対応にむけた実習担当者との調整などを行います。

法人内部研修については、研修内容に応じて対面による研修とオンラインによる研修を併用しながら実施します。今年度は年間を通しての階層別の研修に加え、下半期には施設長もしくは課長が講師となって行う事業種別の研修を企画します。

社会福祉充実計画については、①自主的な外部研修参加費用 ②介護福祉士受験の実務者研修参加費用をそれぞれ助成します。年度を通して①は20名、②は5名の職員の応募があるように啓発します。社会福祉充実計画は今年度が最終年度となりますが、この研修助成制度について次年度以降の継続に関して提案行います。

Web会議システムの積極的な活用・推進については、昨年度の経験からTeamsやZoomなどの新たなシステムの活用に拡がり、費用や利便性などからこれまでの「Live On」からそちら移行し、積極的な活用と定着を進めていきます。同時に各施設のWeb環境の整備などについても協議していきます。

第4期中期計画と推進策（職員育成推進部担当）

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
人材確保に向けた組織整備・環境整備	学生・就活者と現場で会う機会の整備・充実	①各施設の現場実習受入れ体制確立と確認 実習受け入れ状況の調査・まとめ実施 ②実習指導者（担当者）法人内連絡会の開催 実習指導担当者等との情報共有・意見交換実施 ③大学・各種学校訪問の充実 新規開拓を含め出来るだけ多くの訪問を実施 ④大学・各種学校の担当教員との繋がり強化 OBの同行について各施設の協力を得て訪問実施
	法人を知ってもらう機会の整備・充実	①Web求職サイトの活用 掲載内容について定期的な更新実施 ②各種就職フェアへの出展 Webでの出展も含め出展機会を増やす ③学生・求職者の見学説明会の実施 但馬・神戸の各拠点で定期的に見学説明会を開催 ④各事業所の仕事紹介イメージ動画作成 動画内容・作成方法について再検証
	採用試験エントリーに繋がる仕組み作り	①採用試験受験エントリーページの作成と活用 ②選ばれる募集要項の作成 職種ごと・目的・用途などに応じたレイアウトの刷新について検討
職員育成のための環境整備	法人内部研修の充実	①既存各内部研修のブラッシュアップと報告・共有 ②既存の法人内部研修に新研修の取入れ 事業種別に施設長・課長が講師となってシリーズ研修（3回）を下半期に実施 ③各研修に理念研修プログラムの取入れ 各研修のプログラムに取入れ継続 ④各研修の理念定着部会との協働実施 研修組立や研修事務局担当を含めた協働体制実施 ⑤自主研修参加助成の継続 社会福祉充実計画の継続実施 ⑥神戸常盤大学との協働
	各研修への参加し易さの追求	①研修実施場所の検証 オンラインによる研修の際の受講場所の検討と環境整備 ②各研修年間計画の共有 内部研修一覧表の作成と共有 ③研修実施方法の新提案 オンラインと対面による研修の併用

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
Web会議シ ステムの積 極的 な活用・推 進	多様なオンラ インシステム の活用	①会議等の活用推進 Zoom 等新たなシステムへの移行と活用

第4期中期計画の2か年度目として

中期事業目標③ ひとり一人の居場所をていねいに作り、安心安全な生活を提供します

QOL推進部担当

種谷 啓太

QOL推進部の第4期中期計画の2年目は、各施設がチェックリスト、第三者評価などの結果についての改善報告書等を提出するためのシートを作成します。またこれまでのQOL推進部からの調査等の報告につきましても出来るものから公表をおこないます。

コロナイヤーの昨年度は、推進部でのWeb会議、文書での話し合いや打合せに不慣れなこともあり議論が十分ではありませんでした。徐々にWeb会議、文書での協力体制が組み立てられて、各施設で利用者のQOL向上のためのスムーズな改善がおこなえるよう努力しました。

重ねて昨年度は、提供する支援や介護がこれまでの経験値では対応できず、また利用者・家族・職員の意識は日々の生活の安全を確保することに集中したと思います。

今年度はこの昨年の経験を活かしながら、QOL推進部として利用者・家族・職員のストレスや心配をクリアし、職員への応援となれる気付きを文書やWebを利用し発信できるように努力します。

重点実施項目3項目の方策は

1. サービスの評価と向上については、第三者評価の年3施設+自主受審1施設の計4施設
の受審継続とこれまで3年間の満足度調査の実施評価及び改善報告をおこないます。
標準マニュアルは実施完了し、各施設にオリジナルのマニュアル作成が出来ましたが、再度、基準となる標準マニュアルの改訂作業に入ります。接遇アップキャンペーンは年3回実施します。
2. 虐待防止への取り組みについては、年2回の虐待防止チェックリストを実施、集計、さらにセルフチェックリスト施設評価・対策シートを作成し問題点を見つけます。
また、虐待防止基準表・判定表を用いての各施設での学習会のための説明会を実施します。
3. 高齢化への取り組みについては、昨年度下期に実施した神戸地区通所利用者基礎調査集計を基に神戸地区での高齢化対策の検討会を予定します。
事故検証へのアプローチにつきましては昨年度実施しました事故報告調査票の結果から内容検討し、施設と共同で改善策を練ります。

第4期中期計画と推進策（QOL推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
サービスの評価と向上	サービスの評価（自己チェック体制確立）	①第三者評価の受審と評価	①平生園、神戸愛生園、自立センターひょうご受審＋和生園（自主受審） ②自己評価、改善策報告実施
		②満足度調査実施	①3年間の調査結果の報告シートを作成し結果公表
		③自己チェックリスト運用	①自己チェックリスト作成
	サービスの評価	①標準マニュアルに沿った施設マニュアルの作成と運用	①標準マニュアルの課題見直し実施と配付
		①接遇ハンドブック活用	①年3回のキャンペーン実施
虐待防止への取り組み	虐待防止チェックリスト実施と集計	①年2回の実施	①年2回の実施
	集計結果から各施設の評価を導く	①集計結果から各施設の評価を導く	①各施設より評価表回収 ②各施設の結果に対する評価・対策シートの実施
	虐待防止基準表・判定表の事例学習会継続	①年1回以上の基準表・判定表に基づく事例学習会の実施	①年1回以上の基準表・判定表に基づく事例学習会の実施 ②基準表・判定表の使用について説明会を実施予定
高齢化への取り組み	高齢化への取り組み	①高齢化に対する利用指針作成	①神戸地区通所利用者基礎調査を基に神戸地区の高齢化対策の検討会実施
	事故検証へのアプローチ	①再発防止策へのアプローチ	①事故報告調査票より内容を検討し、施設と共同で改善策検討

第4期中期計画の2か年度目として

中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

経営強化推進部担当

西山 充

新型コロナウイルス感染拡大に伴う福祉サービス利用自粛の影響を受け、当初計画した神戸地区独自の送迎サービスルート追加走行を見合わせるなど依然厳しい状況が見込まれますが、中期事業目標達成のための二つの重点実施項目「安定した事業収入の確保」、「ICT化等による業務の効率化、省力化」に対し、以下の内容を中心に活動します。

「安定した事業収入の確保」に対しては、感染予防対策を徹底した上でご利用者を受入れ、各事業所が目標とする利用者延人数、給付費収入の達成に向けて月次進捗管理を行うと共に、状況に応じてヒアリングを行い、課題を共有し改善に向けた対策を共に考え提案します。

2021年度は介護・障害福祉サービス双方の報酬改定が行われ、介護報酬は0.70%、障害福祉サービスも0.56%共に僅かなプラス改定となりました。改定内容の理解に努め、特に新設された加算の取りこぼしなどが無いよう取り組みます。

「ICT化等による業務の効率化、省力化」に対しては、電子印鑑決裁とペーパーレス化を積極的に進め、捺印業務減による新型コロナウイルス等への感染リスクの回避、決裁のスピードアップと書類管理業務の効率化、印刷コストの削減、書類保管スペースの削減を目指します。具体的には、稟議書等の決裁のため昨年度導入したデスクネッツネオのワークフローシステムを本格稼働させると共に、出張申請・旅費精算等各種届出書類やケース記録等利用者処遇関係書類への運用拡大を図ります。

会議システムの見直しについては、会議開催に要する時間短縮と労力削減を図るため、チームズ等の機能活用により、会議案内から議事録作成までの一連業務のシステム内での完結と、パソコンやタブレットを利用したペーパーレス会議の実現を目指します。

社会福祉充実計画は最終年度を迎えます。導入した介護用ロボット等先進福祉機器の更なる整備を推進すると共に、AI・ICT化に関する市場の情報収集・提供に努め、各事業所のニーズに応じた機器の導入に向け提案とサポートを行います。また、2016年度の導入以来8施設に整備した記録システムの更なる活用のための学習会を開催して効果的な運用に取り組むと共に、統計処理等の機能活用モデル施設を選定して実践し、システム機能の習得と他の整備施設への伝達・共有に努めます。

第4期中期計画と推進策（経営強化推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
安定した事業収入の確保	各事業の年度目標値達成に向けた働きかけ	各事業の目標値（利用延人数・給付費収入）に対する月次実績チェック	①利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成状況を把握 ②各施設（事業）に目標値達成状況をフィードバック
		ヒアリングシートの配信、理事等のヒアリングによる改善策の共有と提案	①実績が思わしくない施設（事業）を把握 ②ヒアリングシート配信等により、目標値未達原因の把握と改善策の共有・提案実施
		各種加算の算定要件のチェック	①各事業所が取得している加算算定要件の確認
		※神戸地区で独自の送迎サービスの実施【社会福祉充実計画 No12】	①神戸地区内施設での前回ニーズ調査を再検討 ②対象者及び走行ルートの確認 ③送迎車両の選定・購入 ④送迎の実施
	計画的な積立金の計上	予算ヒアリングにて目標額を計上、中間決算ヒアリングにて見込額確認	①積立目標金額 1.5 億円 A：長期修繕計画積立 1.3 億円 （黒田建築設計事務所算出の 2021～2025 年度 5 年間の修繕費用 1 年平均額） B：新規事業建設積立 0.2 億円 （2021～2025 年度 5 年間の新規事業（社会福祉充実計画除く）の自己負担費用 1 年平均額）
ICT化等による業務の効率化、省力化	ロボット等先進福祉機器整備、AI・ICT化の推進	各事業所のニーズ調査	①福祉先進機器、AI・ICTの活用構想の確認と共有
		情報収集と提供	①昨年度実施したアンケート調査に基づき、知りたい情報等の情報収集及び提供 ②展示会に参加し情報収集 ③先進福祉機器等導入施設の見学
	※先進福祉機器の整備【社会福祉充実計画 No10】	具体的な導入への提案とサポート	①補助金、助成金などの情報収集及び提供 ②導入希望施設に導入に向けた提案とサポート

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画
	記録システム機能の活用	記録システム活用推進学習会の開催	①記録システム整備施設の機能活用状況を把握 ②ND ソフトウェアによる学習会の開催 ③学習会開催後の効果の検証
	※記録システムの運用拡大【社会福祉充実計画 No13】	モデル施設での実践と共有	①システム機能活用モデル施設の実践 ②機能活用状況の共有（報告会実施）
	各種様式等の見直し	各種届出様式の見直しを含む稟議書等電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①稟議書等電子印鑑決裁の本格導入 ②出張報告書・旅費精算書様式の見直しと運用 ③各種届出様式のデスクネットを利用したワークフローシステムの導入（試験運用）
		ケース記録等利用者処遇各種帳票の電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①モデル施設の運用についての報告 ②全施設での試験運用 ③記録システム導入施設での運用状況確認
	会議システム（準備・開催・記録）の見直し	会議資料・記録作成の効率化	①Teams 等を使用したペーパーレス会議を拡充
		ペーパーレス会議の実施	①会議資料等のペーパーレス化について方法を検討

第4期中期計画の2か年度目として

中期事業目標⑤ 誰もがつながり支え合う地域の実現をともに創る資源となる

地域貢献推進部担当

加藤 成久

2020年度は各施設や地区で主体的・継続的に取り組んできた地域への取組について発展的に持続するために部会としてどのようにかわり、支援できるかを計画していましたが、新型コロナウイルス感染防止の為にほぼ全ての地域と関わる機会やイベントが中止となり、計画をいったん止めて、その方法を立て直すことになりました。

2021年度は「ウィズコロナ」の中で、ようやく先が見えてきて再び動き出す時にオンラインを利用したり、必要十分な感染対策の中でできる範囲で取り組む各施設の地域貢献活動を支援します。

また、今年度開設する但馬地区では放課後デイ、グループホーム「めぐみ」、神戸地区では「神戸聖隷オアシス」内事業を通して地域の個別ニーズを把握し対応していきます。特に社会との繋がりにおいて困難さや生きづらさを抱える方、ひとりひとりに目を向けた取り組みを支援していきます。

災害時における要援護者へのセーフティネットとしての役割については、避難所設営研修等に積極的に参加して新しい体制整備を進めます。並行して災害派遣福祉チーム（DWAT）参加に向けて取り組みます。

広報の充実と活用については、部会担当者のスキルアップ、各部会と協働してホームページの改良や更新をタイムリーに実施し、理解促進に取り組めます。

これらの計画を通して、地域共生社会を捉えて、地域に暮らす人々が「相互に支え合う」関係を探る取り組みを進めてまいります。

第4期中期計画と推進策（地域貢献推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
<p>施 地域におけるセーフティネットとしての取り組みの実</p>	<p>災害時要援護者に対する支援体制の構築（充実計⑱）</p>	<p>福祉避難所の体制整備</p>	<p>①受入マニュアルの各施設版作成 ②福祉避難所開設に係る研修会への参加</p>
		<p>各地区、施設の災害時の体制等の整備（もの・ひと）</p>	<p>①災害時の法人内連携体制の構築 ②新型コロナウイルス対策を追加した体制整備</p>
	<p>制度の狭間にある支援の実施</p>	<p>生活環境改善（ゴミ屋敷清掃）・生活困窮者支援（フードバンク等）への取り組み</p>	<p>①地域ニーズ把握と支援体制の確立 ②地域ニーズに対応した支援活動の実施</p>
	<p>法人外関係機関（ほっとかへんネット等）との連携</p>	<p>各ほっとかへんネット・自立支援協議会の取り組みを法人内に情報発信</p>	<p>①但馬地区関連各自立支援協議会へ積極的参加と情報発信 ②神戸市各区ほっとかへんネット・自立支援協議会への参加と活動情報の共有</p>
<p>施 じた 地域のニーズに応じた支援活動の実</p>	<p>地域のニーズに応える体制の構築</p>	<p>地域ニーズの情報収集方法と支援内容の見極め 支援体制の検討と構築</p>	<p>①但馬地区情報収集フローチャートによる情報発信・介護者の集いの実施 ②地域ニーズに対応した支援内容の検討と確立（総合相談センター（神戸聖隷オアシス）を中心に）</p>
<p>地域住民と積極的に交流する活動の実施</p>	<p>地域活動への積極的参画</p>	<p>地域向けイベント等の実施</p>	<p>①地域イベントの把握と再開へ向けた支援検討 ②但馬地区グラウンドゴルフ・感謝祭等の再開とフィードバック ③神戸地区おいでやすカーニバル・防災イベント・落語会等の再開協力とフィードバック</p>
	<p>地域との交流機会の提供</p>	<p>交流スペースの地域開放</p>	<p>①さくらの苑を中心に地域への交流スペース開放継続とフィードバック ②神戸聖隷オアシスの交流スペースの地域開放とフィードバック</p>
	<p>ボランティアの確保</p>	<p>ボランティアの積極的な受け入れと仕組みづくり</p>	<p>①ボランティア活動再開と各施設、市区ボランティアセンターとの連携 ②神戸常盤大学との連携 ③現状把握とフィードバック、情報の共有</p>

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画
高齢者・障害者への理解促進に向けた取り組みの実施	福祉教育、福祉体験を通じた理解の促進	福祉体験学習等の継続を積極的に推進	①福祉体験学習の再開とフィードバック
	広報の充実・活用	HP、SNS 等を活用した情報発信	①HP のリニューアル実施 ②更新担当者のスキルアップ ③更新内容を明確にして現 HP の改良・更新を進める ④各部会との協働

第4期中期計画の2か年度目として

中期事業目標⑥ 持続的発展を担う組織基盤の確立を目指します

人事・労務・危機管理推進部担当

吉田 和夫

2021年度の事業計画について

2022年ビジョン「持続的発展を担う組織基盤の確立」を目指して、「多様な働き方と適切な処遇制度の整備」を中心に取り組んだ第4中計の初年度（2020年度）には、4中計当推進部全体の流れを形成するための実質的な戦術的ツールや知見が得られました。当然、事柄によっては、この先の展開方法が明確なものと、「さてどう組み立てるか」という社会の動向もともかく、法人の持続性を踏まえつつ落としどころを決定していかねばならないものとが混在しています。

その中でも、人口減少社会の入り口で厳しく人材採用難に直面している現状を改善するため、職員の活躍と処遇の連携を明確化するいわゆる「同一労働同一賃金」の理念に沿った人事制度を、いよいよ就業規則にまとめ上げる年度と位置付けて誠心取り組みます。正規・臨時・パートタイマーという永年の雇用形態区分を超えて、意欲ある職員すべてへ、その活躍に応じた処遇ができるような人事図面を描くように努めます。

働いている職員のワークライフバランス（以後、WLB）についても地道に取り組んでおります。特に、2020年度にひょうご仕事と生活センターの協力を求めたことで、法人が行ってきたWLBについて、社会との比較ができ、外から見た当法人の働きやすさを示す指標がはっきりしてきました。2021年度にはWLBの取組を適切にしている企業であること、女性の活躍指標（えるぼし）の認定を実現します。また、従来から永く取り組んでいる次世代育成支援の証としての「くるみん」認証についても獲得します。

「経営者育成」に関して、2020年度後半から8名の理事により理事能力の向上と6つの推進部の連携による事業強化の道を追求しています。6つもある推進部体制の陥穽である「タコづぼ」化を避け、法人事業の価値を大きく高める意識で法人経営に当たる仕組みへ（心情を含み）大きく変化させたいと考えております。そして、このことを起動したうえで、次世代経営者育成のための仕組みを動かし始める年度にいたします。

当推進部のリスク管理は企業体としての経営リスクに対応するものですが、近年、施設管理者の課題に関わる力の低下が、当該施設で改善・完結できる問題を大きくしてしまう事例が発生しがちと認識せざるを得ない状況が見られますので、早期介入を旨としつつ、本来あるべき福祉施設・事業所管理者を育成する方向から、他の推進部との共働を図っていきます。

第4期中期計画と推進策（人事・労務・危機管理推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
多様な働き方と適切な処遇制度の整備	(正規) キャリアアップ推進	正規職員の就業体系再整備	新就業規則策定
		賃金改善・給与体系再構築	新給与規程策定
		人事考課制度の拡充	新人事考課制度策定
多様な働き方と適切な処遇制度の整備	〔準正規〕 限定正社員等の多様な雇用形態の導入	新型正規の就業体系構築	各種規程等整備
		給与体系構築	給与体系の確定
		限定正社員制度の運用	該当者の確定、募集
	〔非正規〕 多様な「サポート（非正規）スタッフ」の活用	「非正規職員」への人事考課制度の拡大	共通様式作成
		活躍の場の多様化と賃金改善	各種規程等整備
WLB推進による就業満足度の向上と定着の推進	働き方改革の更なる推進	有給休暇取得の推進	有給取得率72%(前年度プラス1日推進)
		時間外労働時間の実態管理と改善支援	毎月実績管理、管理監督者指導
		WLBの更なる推進	自己診断結果の分析と研修立案 WLB認定企業承認
		生産性向上への取組① (支援現場業務改善への取組)	取組の開始
		生産性向上への取組② (ペーパーレスの推進)	主要会議のペーパーレス化

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
	勤怠管理システム機能活用による勤怠管理	システム定着、運用サポート	システム機能活用による勤怠管理の実施
	職員就業満足度の把握	第2回職員意識調査の実施	第2回意識調査の実施
WLB推進による就業満足度の向上と定着の推進	働きやすい職場環境改善とアピール(ユースエール・くるみん・えるぼし認定)	女性の活躍推進に関する取組の実施	えるぼし認定
		次世代育成支援に関する取組の実施	くるみん認定
		若者雇用促進法に基づく若者の採用・育成取組み実施	ユースエール認定準備
経営者育成	管理者育成	施設長コースの設定・運用	キャリアラダー構築、教育体系策定、アナウンス、調整、手続の実施、育成教育
	法人経営者選抜育成	執行役員制度の設置	定時評議員会で設置・運用(常任理事会廃止)
		経営者コースの運用	理事人選(定時評議員会)、執行体制設計整備、理事自己研鑽・研修、推進部連携
経営リスクへの対応	人手不足解消	「人事部」の創設	主に採用部門で設置
	コンプライアンス意識の強化	体制強化	危機管理室検討、ハラスメント防止研修会
		情報共有・初期対応	共有ルール・ツールの検討、導入提案、導入と利用開始
	危機対応を体系化する取り組み	全国福祉村サミット開催(テーマ:法人経営リスク)	開催、研究報告要請、座長役割
法令遵守委員会の活性化		委員会開催、事例検討、リスクヘッジ研究、施設活動へ参画	

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
成年後見制度活用推進委員会
常務理事 吉田 和夫

成年後見制度にかんする活用推進の取組みは、神戸聖隷の考える「親亡き後の支援」の一翼を担う現実的な方法として、着実な広がりを感じてまいりました。その原動力は全施設・事業所の介護・支援課長の手で途切れることなく守られてきた年間5回の委員会、また但馬地区、神戸地区で欠かさず開催された基礎研修会の実施にほかなりません。

近年、ご利用者家族の高齢が進んだことから、法人内での成年後見制度活用推進の方法が、従来通りでは進められないこともわかってきました。市民後見人育成の滞り、専門職後見人の広がり小ささ、家族後見人の年齢制約などの、適切な後見人の確保の難しさに直面しています。委員会では、後見人制度に取り組んできた社会福祉法人として、これまで以上の使命感が必要なのではないかとの意見が出てきました。

また、ベテランの支援課長が主体的にかかわっている本委員会の新たな強化策も急務となっています。人事異動の結果、中核的な課長が施設長へ昇任して本会を抜け、また新たに昇任して参画する新課長は、かなり高度化した本委員会の取組みに一から入っていかなければならないという、構造上の課題を整理しなければならないこともあります。

幸い、現在の本委員会のメンバーは極めて積極的にこの委員会の役割を果たせるよう考え続けていますので、私は、この委員会が常任理事会機能の直下機関として理事と手を携えて、「親亡き後のご利用者支援」の確立のために一層の活躍ができるよう、2021年度の主な取組方針を下記の通りとして、確実な歩みを進めてまいります。

記

1. 成年後見制度活用推進委員会の継続的活動のために

- ① 本会のリーダーを複数制にします。
- ② 各施設で小委員会を設置して活動します。
- ③ 両地区で基礎研修を開催します。

2. 活動目標を明確化するために

- ① 年度の取組方針をスローガンにします。

3. 新たな推進策のために

- ① 本会開催時に、指導者による「法人後見」学習会を行います。

4. 委員会のモチベーションアップのために

- ① 本会開催時に、専門職からの助言を得ることができるようオブザーバーを招きます。

以上

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖隷歴史資料館
管理者 吉田 和夫

神戸聖隷歴史資料館の基本方針

1. 収集・整理・保存を通して、創始の思いを学び、そして後世に伝えます。
2. 調査研究を通して法人の特色を発信します。
3. 歴史資料の展示を職員研修に積極的に活用して、職員のモチベーションを高めます。
4. 社会福祉事業の不透明な将来に向けた逞しい展開を考える場にします。

2021年度の事業計画について

神戸聖隷歴史資料館の2021年度事業計画は、昨年度同様に地域社会との連携、広報活動の充実に加え、資料の収集・保管・展示をさらに進めて参ります。

理念の視点では、資料の収集・保管・展示に関して、旧さくらの苑に保管しております本部書類の整理を引き続き行い、適切に保存管理を進めて参ります。ギャラリーの利用促進については、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で積極的な広報活動ができませんでしたが、今年度は徐々に広報活動を再開し、多くの方々に作品展示をして頂き、歴史資料館の認知度向上に努めていきます。施設利用者の作品展も同様に開催し、今後も継続して利用者の活動を発信していきます。映像コーナーでは、新たに施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加し、法人各施設を紹介できるよう取り組んで参ります。

人材育成の視点では、歴史勉強会・職員研修等にて法人歴史の学習機会を提供します。

地域貢献の視点では、竹田中町区における「指定緊急避難場所」として、中町区と引き続き関係性を強化し、地域の防災に協力できるよう努めていきます。但馬よろず福祉相談所については、新たなチラシを作成するなど地道な広報を積み重ね、地域的に意味ある相談窓口にしていきます。

第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

創始の熱い思いを全職員の心に響かせ、福祉に対する市民の理解を拓げるために活動します

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
歴史資料館の広報活動の充実	あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットの設置、広告を掲示
		①両施設の担当者が情報を共有 ②出展者に互いの施設を紹介し、両施設で同様の展示を実施

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
歴史資料館の広報活動の充実	法人主催行事の開催	①理念部会等と協力し、クリスマス会等を開催
	ギャラリーの利用促進	①地域住民・関係者への広報活動 ②施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信
	インターネットを活用した広報活動	①ホームページにて最新情報を発信
資料の収集・保管・展示	映像コーナーに新しい映像を追加	①施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加
	本部書類の管理	①旧さくらの苑保管の本部書類の整理を行い、適切に保存管理する
	工事関係書類・広報誌の管理	①工事関係書類（契約書等）、広報誌を適切に保存管理する

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
学習機会の提供	法人の歴史勉強会等の開催	①歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供

(3) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域社会との連携	地域防災への協力	①「指定緊急避難場所」として地域防災に協力
	「但馬よろず福祉相談所」の利用促進	①相談体制（事業所間連携・相談バックアップ等）の構築 ②新たなチラシを作成し、地域住民への広報活動を行う

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 平生園

施設長 太田 敦子

平生園の基本方針

1. 利用者様が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（生きる）施設を目指します。

2021 年度の事業計画について

今年 11 月平生園は開園 30 年を迎えます。施設全体に老朽化が目立ち、設備面等不具合も発生している状況です。今年度は近隣施設の資金協力も得ながらより快適な環境に整えるため、大規模改修工事を実施いたします。改修はご利用者の生活を継続しながら実施することとなるため、ご利用者の安全を第一にそしてサービス低下のないよう進めて参ります。

また、昨年は新型コロナウイルス感染症予防の為、外部との交流等に制限を設けたことにより、未実施の計画もありました。先の見通しは不透明ですが、コロナ禍の状況で実現した家族との交流方法の継続等、新たな取り組みも含め特に QOL の視点、人材育成の視点から 3 項目について推進いたします。

QOL の視点の一つ目は「看取り支援の充実」です。昨年度も 10 名以上の方へ看取り介護をいたしました。が、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等に沿い、コロナ禍にあっても病院とは異なり、ご利用者とご家族が寄り添うことのできる支援、またご利用者にとってオンリーワンの看取り介護の実践ができるよう職員の技術、知識の習得も含め取り組んで参ります。二つ目はサービスの質の向上として「リスクマネジメント（事故防止）」に取り組みます。昨年下半年に事故が立て続けに発生。また同じ事故を繰り返すといった状況がありました。事故の検証と情報共有等を確実に実施し、同じ事故を繰り返さない事故ゼロを目指し取り組みます。三つ目は人材育成の視点「エルダー制度の再構築」です。昨年度からの継続となりますが、介護職員不足の中、エルダーの育成が大きな課題となっています。引き続き中堅職員を主に職制全体でエルダーをサポートし育成してまいります。

今年度は介護報酬改定もあり質の評価やデータ活用の評価が重視され、それに伴う取り組みを評価する加算などが新設されています。改定内容を職員間で共有し必要な支援、記録等が確実に実施できるよう他職種連携にて努めて参ります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
第 1 種社会福祉事業	介護老人福祉施設	60 名	要介護高齢者
第 2 種社会福祉事業	(予防)短期入所生活介護	空床型	居宅の要介護・要支援高齢者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

利用者とその方を取り巻く皆のしあわせを追及いたします

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
基本理念の実践	理念勉強会の開催	① 地の塩伝道所牧師による上半期・下半期各3回(年6回)の勉強会を開催 ② 理事長による講演(1回/年)
	理念研修へ職員派遣	① キリスト教福祉基礎講座、法人理念研修等へ職員派遣(3名以上/年)

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
福祉人材の育成に努める	計画的な研修の実施と参加	① 職員会議にて各学習会を開催(10回以上/年) ② 外部研修参加者の年間計画作成と派遣実施 ③ 伝達研修の実施
	エルダー制度の再構築	① 職制が中心となり、中堅職員を対象に知識、技術を指導し、エルダーを育成(1名/年) ② リーダー養成研修などへの職員派遣 ③ 毎月の振り返り実施 ④ 書式(マニュアル)の作成および更新
働きやすい職場作り	ノーリフトケアの実践	① 委員会および学習会の開催(4回/年) ② 指導者の育成(1名/年) ③ 長寿の郷による人材派遣事業の活用(4回/年)
	先進福祉機器の導入検討	① 先進福祉機器の情報収集 ② 機器の選定、デモ機の活用 ③ 施設改修に合わせた機器の導入(特殊浴槽等)
	記録支援システムの有効活用	① 記録支援システム活用推進者育成(各フロア1名) ② マニュアルの更新、作成 ③ 学習会の開催(包括的自立支援プログラム) ④ 記録時間の検討 ⑤ 記録支援システム(食事・入浴・排泄に関する)のiPad活用推進

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
利用者主体の支援の充実	看取り介護の充実	① 看取り開始時およびデスカンファレンス実施 ② 学習会の開催（2 回/年） ③ 研修会へ職員派遣もしくは講師依頼
	個々のニーズに着目したアセスメントと充実した支援の実施	① 再アセスメントの実施（2 回/年） ② オンリーワン支援の実施 ③ アセスメントツール検討（包括的自立支援プログラム）
サービスの質の向上	マニュアル(手順書)の更新及び共有と実践	① マニュアルの更新（1 回/年）および適宜作成 ② 各種マニュアルの整理、管理方法の検討 ③ 各委員会、各種担当業務の手順書作成
	接遇の向上	① 委員会の開催（4 回/年） ② 接遇ハンドブックの活用（1 回/月 職員会議にて輪読） ③ 月間標語作成 ④ 研修会へ職員派遣および学習会の開催
	リスクマネジメント	① 事故・ヒヤリハットの検証と情報共有 ② 改善状況の確認 ③ 職員派遣および学習会の開催（学習会 2 回以上/年） ④ 虐待・不適切ケア・身体拘束の検証と共有 ⑤ 介護技術講習会の実施 ⑥ QOL 推進部会による施設巡回および勉強会への参加依頼 ⑦ 介助方法の見直し
	サービスの評価	① サービス評価の共有および改善案の検討、実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
的な計画的の実施	改修計画に基づいた計画の実施	① 補助金の申請準備 ② 工事期間中の安全な生活の提供（工程会議の充実）
経営力の確保	安定した収入の確保	① 空床期間の短縮および短期入所利用者の積極的受入れ ② 加算の見直し ③ 適正介護度の確認および必要に応じて変更申請提出 ④ 市内各関係機関との連携、情報収集の実施 ⑤ 口腔ケアの実施による肺炎予防、機器を活用した見守りによる
	加算要件の確認	① 加算要件の確認（1 回/月） ② 加算要件チェックシート一覧の作成

	経費削減	① 職員会議での報告、経費削減の意識づけ ② 物品の在庫管理 ③ 修繕費の取捨選択
--	------	---

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
の在宅介護サポーター	地域ニーズへの協力	① せいいい介護者の集いへ職員派遣（6回/年）
	認知症サポーターの養成	① キャラバンメイト1名（講師）の育成 ② 認知症サポーター養成講座開講（2回/年）
の地域への情報発信	ホームページ・フェイスブックの活用と機関紙発行	① ホームページの更新 ② フェイスブックの更新（4回/年） ③ 機関紙の発行（2回/年）
の積極的なボランティア受入	新規ボランティアの開拓と定着	① ボランティアの情報収集 ② 新規ボランティア開拓 ④ ボランティア受け入れと継続依頼

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
のワークライフバランスの推進	有給休暇5日以上取得	① 有給休暇取得年間計画表作成 ② 有給休暇取得状況を職制会にて確認（毎月）
	ノー残業の推進	① 残業時間の確認 ② 退勤時間乖離者への啓発と業務改善
の危機管理強化	災害及び防犯訓練の実施	① 避難訓練実施（2回/年） ② 防犯訓練実施（1回/年）

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 わらしべ

施設長 太田 敦子

わらしべの基本方針

1. 常に利用者に寄り添い、心の安心を提供します。
2. 私たちは、利用者が安心した日常生活を送ることができるよう、支援を行います。
3. 私たちは、利用者に役割を持っていただき、家庭的な環境の下で生活を送っていただける様に支援を行います。
4. 私たちは、利用者の身体拘束及び、行動の制限に繋がる行為(言動)は行いません。
5. 私たちは、個人情報に関する守秘義務を遵守します。

2021 年度の事業計画について

ビジョン「安心、笑顔、自由、その人らしい暮らしの実現」に向け、コロナ禍であってもご利用者そしてご家族の方々にも、わらしべでの生活は安心と感じていただけるよう、感染状況を見極め警戒しつつも積極的な活動ができるようにいたします。また、特に人材確保・育成、QOL、人事・労務・危機管理の3つの視点を重点的に取り組んでまいります。

人材確保の視点では、介護報酬改定における改定事項に、経過措置期間はあるものの認知症介護基礎研修の受講が義務づけられます。Web 研修など感染予防をしながら参加できる内部・外部の専門研修等へ計画的に参加し、支援の統一や認知症対応能力の向上などに取り組みます。また、介護人材不足の中、貴重な職員一人ひとりを大切に育てるという人材育成の部分において、誰が見ても理解しやすい実践に繋がる人材育成プログラムの作成と、書類等の整備をいたします。

QOL の視点では、食事提供に関し介護員が献立、食材発注、検品、調理といった一連の業務を全て実施していますが、ご利用者への直接支援以外の業務もあり、少しでも利用者支援のための時間として活用できるよう現在の食事提供方法の検討を行い、利用者支援の向上に結び付けられるよう取り組みます。

人事・労務・危機管理の視点については、介護職員不足も重なり有給休暇の消化が難しい状況にあります。年度当初から時季指定を伝え計画的な取得と、業務にメリハリをつけ互いに声掛け合い残業時間ゼロに努めてまいります。

施設整備ですが、昨年3月空調機器の改修を終え快適な生活になった途端、また新たな給湯機器の不具合が生じ、業者への連絡と修理が日課のような状況となっています。ご利用者の生活に支障をきたす事のないよう最善の選択を行い、早期対応をいたします。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
第2種社会福祉事業	認知症共同生活介護(介護予防)	18名	認知症高齢者
第2種社会福祉事業	短期利用認知症対応型共同生活介護	空床型	在宅認知症高齢者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

安心、笑顔、自由、その人らしい暮らしの実現

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
と基本理念の理解 と浸透の理解	法人理念の理解と共有	①職員会議時の牧師によるメッセージの実施（1回/月） ②ハンドブックを活用した理念の理解（偶数月）
	キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉基礎研修への参加 ②法人理念研修への参加

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
の向上 加に内部・外部による専門性	内部・外部研修の情報収集と計画的な研修参加	①専門の基礎研修等への参加（長寿の郷等:5回以上/年） ②認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修への参加（各1名） ③職員会議での伝達研修の実施
	伝達研修の充実	①内部研修会の開催
確保人材	人材確保・育成	①人材育成プログラムの作成 ②書類の整備

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
個別支援の充実	カンファレンス	①カンファレンスの実施（一人1回以上/年）
	各ユニットでの取組み 両ユニット協働による支援の実践	①年間計画の立案と実践 ②活動メニューの選択肢を増やし、個々のニーズの聞き取りとプランへの反映、実践
	食事提供方法の見直し	①検討委員会の立ち上げ ②調査・検証 ③食事提供方法の確定
し全安心・安 の実暮らし 現	防災・防犯への取組み	①毎月避難訓練の実施 ②避難確保計画の更新（5月） ③防犯訓練の実施（1回/年）

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
	事故防止強化	①委員会の開催 ②各マニュアルの更新
	虐待不適切ケアへの取組み	①年2回以上の身体拘束廃止研修会の開催（6月・10月） ②年3回以上の委員会開催（4月・7月・9月・2月）と記録の共有
応度看取りへの対重	看取り支援体制の構築	①委員会の開催 ②マニュアル作成 ③研修会への参加

（４）経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
安定した経営	関係機関との連携による収入確保	①入所申し込みの再調査（5月） ②関係機関及び家族との連携強化
	収支の理解	①経費削減の周知と実践（経営強化推進部会からの情報提供）

（５）地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域との繋がりの強化	地域交流の充実	①こども園、小学校等との交流 ②地域ボランティアの受入 ③ホームページ、フェイスブックの更新と機関紙発行 ④地域貢献部会への協力依頼（情報発信等）
	地域活動への参加	①キャラバンメイト活動への参加 ②地域行事への参加

（６）人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
職場作り	働き方改革の理解	①職員満足度調査の実施 ②生産性向上のための事業計画進捗のチェック ③残業減への取組み
	有給休暇の取得促進	①計画的な取得の促進
学ぶ視点	コンプライアンスの浸透	①服務規程（規則集）を学ぶ機会の提供

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 さくらの苑
施設長 小山 哲也

さくらの苑の基本方針

1. 利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（活きる）施設を目指します。

2021 年度の事業計画について

第 4 期中期計画さくらの苑 2022 年ビジョンは「垣根のない施設としてさくらの苑は、地域に寄り添い共に歩める施設を目指します！」です。ご利用者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるよう、地域ニーズや社会資源などを把握し地域の方々と一緒に高齢者を支えていけるようにシステムの構築を目指します。

ご利用者のニーズに合った個別支援を行うために、各委員会活動で、勉強会を開催し職員の知識や介護技術の向上を図ること、個別支援を可視化し情報共有を図るための 24 時間シート活用とケア記録ソフト活用の継続を実施すると共に、各種ユニットケア勉強会に参加し、さくらの苑職員全員で「さくらの苑らしいケア」「さくらの苑的ケア」を確立し、個別支援の充実に取り組んでまいります。

第 4 期中期計画 1 年目に実施できなかった、地域貢献を 2021 年度は実施方法や感染予防対策を検討し、さくらカフェと出前講座の開催、さくら新聞の定期配布を行い地域とのつながりを大切に、信頼関係が築けるよう取り組んでまいります。

人材育成では、毎年高校卒業の新人も入職されるようになったこともあり、新人職員育成のオリエンテーションプログラムの検討や職員満足度調査の実施、働き方改革の取り組みを通して働きやすい職場で長く働ける職場を目指し取り組んでまいります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
第 1 種社会福祉事業	地域密着型 介護老人福祉施設	29 名	要介護高齢者
第 2 種社会福祉事業	短期入所生活介護 (介護予防含む)	10 名	居宅の要介護・要支援高齢者
第 2 種社会福祉事業	地域密着型通所介護	18 名	居宅の要介護・要支援高齢者
第 2 種社会福祉事業	居宅介護支援事業	—	居宅の要介護・要支援高齢者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

垣根のない施設としてさくらの苑は、地域に寄り添い共に歩める施設を目指します！

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
基本理念の理解	基本理念ハンドブックを使用	①神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会の実施
	理念研修を実施	①牧師によるキリスト教福祉のメッセージ聴講（1回/月） ②理念研修会の実施（年1回） ③新任職員を対象とした神戸聖隷歴史資料館の見学
	キリスト教福祉基礎研修に参加	①キリスト教福祉基礎研修への参加
の 実 践 に 沿 っ た 支 援	理念に沿った学習会の開催	①ターミナルケア事例による学習会の開催

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
人材育成のための仕組み作り	業務改善に向けた取り組み 教育システムの見直し	①人材育成システムの検討・マニュアル作り （新人教育相談窓口の明確化） 高卒職員のオリエンテーションの見直し 人材育成方法・内容の検討 ②非正規職員の業務振り返りシート（標準化のための）検討
	役割を担う職員の仕組み作り	①年間研修計画の作成 ②専門研修プログラムの作成 ③権限と役割を明確化するための現状把握
	資格取得への取り組み	①資格取得を目指した勉強会等の検討・実施 ②資格取得のルール作り （職員育成・新人教育研修も視野に入れた研修方法の検討）
働きやすい職場環境を 考える	職場環境改善への取り組み	①勤務時間の見直し ②業務内容の見直し ③ほのぼのとITを活用した情報共有の検討・実施 ④会議の進め方や内容の検討と実施
	記録方法を学ぶ	①ケア記録の書き方を学ぶための研修参加、勉強会の開催

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
	他施設見学 職員満足度調査	①施設見学の計画・実施（1回/年） ②満足度調査の実施（1回/年）

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
個別支援を深める	ユニットケアの理解と実践	①ユニットケア研修参加・勉強会の開催 ②さくらの苑「的」ユニットケアの検討・実施 ③ユニット会議での検討会 ④実践と評価の実施 ⑤ユニット会議で報告
	24 時間シート の活用	①24 時間シートの（個別支援を目的とした）バージョンアップの実施
	個別支援の理解	①他施設見学（1回/年）
	ご利用者満足度調査の実施	①調査実施と集計、報告（1回/年）
目指す地域に開かれた施設を	垣根のない施設への取り組み	①イベントの検討・実施 （めぐみとの共同行事、交流方法の検討・世代間交流） ②地域とのつながりツール検討

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
保 各 各 か 事 事 し た 業 業 利 活 活 用 性 性 者 の を を の 確 確 活 活	利用者の確保	①体験（お試し）利用の実施（随時） ②専門的職種を活かした機能訓練加算算定による魅力あるサービス提供体制実施
	先進福祉機器導入の検討	①眠りスキャン・離床アシストベッドの導入 ②先進施設見学・福祉機器展示会への参加
の 将 来 確 来 の 保 た め の 設 備 積 立 金 積 立 金 の 積 立 金 積 立 金	目標に沿った積立金の確保	①今年度積立額 400 万円の計上

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
	経費の削減	①電子印鑑導入による利用者記録・日誌等可能な書類のペーパーレス保存の実施 ②消耗品等購入先の見直し（随時） ③光熱水費の削減の啓発

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域を知り地域貢献を学ぶ	地域貢献を学ぶ	①研修会への参加（地域福祉関連の研修：Web 等の活用） ②職員会議での勉強会開催（委員会での学びの共有） ③新人職員に地域貢献への取り組みを伝える
	必要な資源を知り、地域へ展開する	①マップ作りを学び、マップから地域への理解を深める ②マップ作りに地域の声を取り入れる ③地域資源の情報収集を実施
地域とのつながりを強め、ニーズ把握を実施	地域サポート施設への参入から展開	①さくらカフェ開催（2回/年） ②出前講座開催（4回/年） ③地域包括と社協との意見交換会実施（2回/年） ④家族会や運営推進会議にて説明 ⑤地域サポート施設事業の広報活動
	ニーズ把握方法、つながり強化のための取り組みの検討・実施	①ニーズ把握方法についての研修参加 ②さくらカフェ・出前講座・ミニデイ・いきいき百歳体操等へ参加し地域とのつながり強化に努める ③さくら新聞の定期発行・配布を実施し直接地域の声（ニーズ）を把握

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
苦情、事故予防の基本的な考え	虐待・不適切ケアへの取り組み	①虐待・不適切ケア防止の研修参加 ②虐待防止チェックリストの運用を実施 ③虐待防止基準表・判定表を活用した学習会の実施
	事故予防への取り組み	①苦情・事故予防の考え方を学ぶ ②事故後の検証実施
働き方改革への取り組み	有給休暇の取得促進	①年次有給休暇の効率的な取得方法の検討・実施
	残業時間の短縮	①退勤時間乖離者への啓発

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 恵生園
施設長 掃部久美代

恵生園、グループホームめぐみの基本方針

1. 私たちは ご利用者の人権を尊重し自ら選んで決めていただけるサービスを提供します。
2. 私たちは ご利用者が生き生きと喜びをもって生活できる施設を目指します。
3. 私たちは 自ら率先して話し合える職場づくりに努めます。
4. 私たちは まちの声に応え 地域に貢献できる施設を目指します。

放課後等デイサービスめぐみの基本方針

1. こども達一人ひとりの個性を大切にし、豊かな育ちを支えます。
2. こどもと保護者に寄り添い、成長を喜び合うことができる施設を目指します。
3. こども達の未来のために、地域に愛される施設を目指します。

2021 年度の事業計画について

2021 年度、恵生園は 45 年を迎えます。歴史を振り返ると恵生園も障害者福祉に関する法律や施策の変化に対応しながら、歩んでまいりました。今年、第 4 期中期計画の 2 年目で計画していることを実施していく年となります。理念については、新たに加わる職員を含めキリスト教に基づく基本理念について理解を深め、利用者支援に繋げるための理念理解の勉強会を引き続き行っていきます。利用者の QOL 向上のためのサービスでは、利用者の重度化・高齢化に伴い、身体機能低下への取り組みや常時支援を必要とする人の対応として、個別支援の計画をしっかりと行い、利用者の障害・ニーズに応じた内容を提供していきたいと思えます。そして、レクリエーション、創作、園芸、リハビリ等日中活動の提供と環境整備、自立意欲の向上や相談支援、生活訓練等に取り組んでまいります。そのためにも職員は、資質の向上として、必要な専門知識・技術を学び、利用者支援に反映していくよう積極的に研修参加に取り組んでまいります。

また、4 月より新事業として放課後等デイサービス、グループホームの運営が始まります。放課後等デイサービスは、児童・保護者・地域との信頼関係を築き、明るく元気な活気ある施設作りに努めます。グループホームは、地域の一員として共に暮らすことを目指し、自立した生活が営めるよう支援していきます。

新たに 2 つの事業が加わり、組織の動きも大変重要な年になります。施設内は勿論、関係機関との連携を密にしながら、運営を強化することに努めます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	生活介護	60 名	身体・知的障害者
障害者支援施設事業（第 1 種社会福祉事業）	施設入所支援	60 名	身体・知的障害者
障害福祉サービス事業（第 1 種社会福祉事業）	短期入所	3 名	身体・知的障害者

障害福祉サービス事業	相談支援事業	—	身体・知的障害者
介護予防等拠点事業（あったかプラザ）	公益事業	—	—
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	共同生活援助	6名	身体・知的障害者
指定障害児通所支援事業（第2種社会福祉事業）	放課後等デイサービス	10名	児童

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

利用者の思いを聴き、利用者中心の支援のもと障害特性に応じたサービスを提供します。わたしたちは、気づき考え行動します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
支援理念に基づいた	キリスト教福祉社の理解	①開園45周年行事 ②理念学習会の実施（全職員） ③牧師によるキリスト教勉強会（2回/月） ④資料館の見学、神戸聖隷ハンドブックの輪読（隔月）

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
術の向上 必要とされる知識・技	資質の向上	①階層、意欲に応じた研修参加と資格取得奨励 ②他法人研修参加 ③伝達研修実施 ④内部研修の実施（感染症、虐待分野重点実施） ⑤身体拘束検証会議の実施（1回/月） ⑥記録ソフトを活用した業務簡略化 ⑦電子印鑑決裁の導入
職場環境づくり 風通しの良い職	誰もが発言できる職場づくり	①ミーティング実施（毎週） ②セルフチェック結果への改善取り組み ③満足度調査結果への改善取り組み ④業務改善会議の実施（3回/年） ⑤接遇ハンドブック輪読（隔月）
ビスの提供 安心安全なサ	危機予測力の向上	①事故検証会議と改善策への取り組み（1回/月） ②感染症予防啓発と研修・備品管理（6回/年） ③防災訓練の実施

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
高齢化重度化への対応	身体機能低下への取り組み	①施設の取り組み状況の紙面配信 ②家族状況の情報把握 ③歯科往診による口腔ケア・支援の向上 ④協力医との情報共有 ⑤口腔衛生管理加算の取得 ⑥医療情報書の家族確認・更新
	ニーズへの対応	①利用者の障害・ニーズに応じた各種日中活動の提供 ②OT 指導のリハビリ支援 ③他事業所の情報収集 ④マニュアル見直し・更新
	居住環境の向上	①環境整備（食堂テーブル椅子、電動ベッド） ②寝具リネンリースの見直し・更新
療育、日中活動の充実 (放課後等デイ)	日常生活の向上	①個別・集団での設定活動による社会性の向上 ②ボルダリング、ブランコなどによる感覚統合の向上
	施設外活動の充実	①高齢、障害施設との交流 ②地域行事への参加
保護者支援の取り組み (放課後等デイ)	満足度アップ	①満足度調査実施と HP への公表 ②何でも相談の受付 ③安全な送迎の実施 ④SNS を活用した保護者との情報共有
支援体制の構築 (グループホーム)	マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務についてのマニュアル作成 ②利用者個々の支援マニュアル作成

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
安定した経営の確保	安定した経営	①物品庫の整理 ②消耗品の管理と見直し ③エアコンの管理 ④公用車リース更新検討 ⑤加算基準を満たした運営 ⑥採用職員の外部・内部研修参加 ⑦運営強化、相談支援専門員育成 ⑧ソフト活用

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
対応地域ニーズへの	地域ニーズの抽出	①アンケートの実施と対策 ②地域交流・介護予防拠点としての運用 ③地域の一員として行事や自治会活動に参加 ④パンフレットの見直し

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
法令遵守	資質向上	①コンプライアンス学習会 ②キャリアパス学習会
の推進	労務管理の徹底	①有給休暇の取得を上げる ②残業を減らす

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 真生園
施設長 大橋 幸司

真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を添え、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しきで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

2021 年度の事業計画について

第 4 期中期計画の 1 年目が終り、2 年目に入ります。昨年度は、コロナ禍の中、施設活動が大きく制限され、尚且つ、ご利用者への感染防止の徹底に力を注ぎ、最善を尽くした中での支援を提供してきました。2021 年度は、コロナ禍であっても、ご利用者が生き活きと生活でき、笑顔があふれる活動が出来る、新しい生活スタイルの構築を目指し、計画を策定しています。

ご利用者の、重度高齢化に伴い、新型コロナウイルス等の感染防止対策の徹底と強化を実施します。また、職員一人ひとりの体調管理・感染予防を強化する為に、内部・外部研修を実施し、ウイルス等を施設に持ち込まない事を徹底します。

ご利用者の QOL の向上を目指し、屋内で活発な活動と、ご利用者がストレス発散できるプログラムの開発や、屋外の散策をコロナ禍であっても実施でき、社会貢献できる内容を検討致します。また、ICT を活用した、ご利用者の買物支援のあり方を検証し、実施方法の改善と見直しをします。そして、ご利用者の体調の情報共有を随時出来る、体調把握システムの構築をします。

職員育成では、よりご利用者の情報を共有し、ご利用者に対しての対人援助技術の向上と、どんな時でも、ご利用者へ寄り添える支援の向上。また、基本的な、介護技術・専門技術等の更なるスキルアップを目指します。

設備面では、天井走行リフトの更新を、今年度は北寮で実施します。その他は、理念研修を、地の塩伝道所の牧師を講師に招き、基本となる基本理念やキリスト教福祉等を学び、レベルアップを図ります。また、成年後見制度の活用や、事故・ヒヤリハット等のリスクの検証と削減を目指します。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第 2 種社会福祉事業)	生活介護	60 名	身体障害者
障害者支援施設事業 (第 1 種社会福祉事業)	施設入所支援	60 名	身体障害者
障害福祉サービス事業(第 2 種社会福祉事業)	短期入所	4 名	身体障害者
市町村地域生活支援事業	日中一時支援	5 名	身体障害者
公益事業	真生園診療所	—	—

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

- ・どんな時も最善を尽くし、その人に寄り添い支えます

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
基本理念の周知	基本理念の理解	①牧師による朝礼メッセージ実施 ②過去の記録を振り返り、真生園の歴史を知る事で、理念の基礎を学ぶ
	キリスト教福祉社の理解	①キリスト教勉強会を職員会議等にて実施 ②理念研修への参加
	神戸聖隷ハンドブックの活用	①キリスト教福祉講座への参加 ②朝礼等にて神戸聖隷ハンドブックの唱和

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
ICT・介護機器による更なる職場環境改善	更なる介護機器の導入と更新	①使用中の介護機器の検証と利便性の向上 ②最新の福祉用具・最新介護機器の情報収集 ③最新介護機器の導入の検討
	ICTによる働き方改革と生産性の向上の取り組み	①ICT等の導入による、生産性向上の検証 通販利用による生産性の向上の検証 ②眠りスキャンとナースコールの連携の調査
指す スキルアップを 人材育成と個々の	個々のスキル向上を目指す	①個々にスキルアップ研修へ参加 ②職員の経験に応じた研修参加の推奨 ③ITを活用した研修の実施（Web研修参加のマニュアル化）
	継続した専門研修への参加	①喀痰研修・サービス管理責任者研修等の専門研修へ参加 ②長寿の郷の介護専門研修等へ参加

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
実 オン ビス の 充	利用者ひとり一人へ寄り添う支援の確立	①全利用者の生育歴等を含めた情報の把握と理解 ②利用者の思いに寄り添う支援を追求する為に、対人援助技術の学習 ③対応困難な利用者にも、最善を尽くした支援を実施

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
	利用者ニーズに沿った施設作り	①運営会議にて、より良い施設運営や施設業務を改善する為に、利用者自治会と協議を実施 ②懇談会にて、各利用者から要望やニーズなどの意見聴取を実施
改革 魅力ある日中活動の	魅力あるプログラムの提供	①コロナ禍であっても利用者の笑顔あふれる活動の提供 季節を感じられる活動の提供、自宅や思い出の場所等への下車しないドライブ外出
	レクリエーション機器の活用	①自由に機器を活用した活動が出来るシステムの検討
上の質・技術の向上 支援サービスの	他施設を見学し、最新の支援技術や支援システムを学ぶ	①他施設と情報交換を行い、導入可能な取り組みがあれば導入し、利用者支援や業務改善を実施 ②Web 情報交換会等の検討と試行

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画	
安定した収入の確保	利用者の確保	①行政・相談支援事業所等へ情報収集、待機者の継続した確保 ②メールを活用し、相談支援事業所等へ利用空き情報等の配信実施	
	職員の確保	①人材状況を随時把握し、ハローワークにて求人を実施 ②緊急な人材不足の対策として、人材紹介業者を活用	
	経費削減と積立金 1500 万円確保		①毎月の水道光熱費等を把握し、適時職員へ使用状況の報告と経費削減に向けた取組み方法を周知
			①介護給付費収入予算を確実に確保し、年 1500 万円の積立実施
院予防 病気の早期発見、早期治療で入	利用者の体調をレベルで区別化し、状態を把握	①医療のトリアージの考え方を取り入れ、利用者の体調レベルを区別化するシステムの検討と立案	
	施設に感染症を持ち込まない	①感染症予防研修にて、感染症予防の基本を学び、職員個々による感染症予防対策を実施 ②感染予防対策の強化と利用者・家族・職員等への周知として、感染症予防月間の実施 ③感染症発生時の訓練の実施	
設備改修 老朽化した	老朽化した設備の改修 (天井走行リフト等)	①天井走行リフトの更新 ②新館スプリンクラータンクの修繕 ③施設内外の老朽個所等の修繕	

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
の苑の解体 (旧) さくら	(旧) さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	① (旧) さくらの苑の室内清掃、及び防災設備の維持管理 ② 新型コロナ対応隔離場所としての活用 ③ 本部備品・保存書類管理の維持

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域と繋がりを作る	竹田地域を散策し店舗等の利用	① 感染症の状況を見ながら、竹田地域へ外出
	竹田地域へ貢献する バリアフリーマップの作成	① 竹田地域への通行困難箇所の調査とデータ化 ② 竹田地域の店舗や公共施設へ施設での作成物の提供
地域へ情報発信	介護機器や地域参加等の情報を公開	① 施設内の最新介護機器や利用者の活動情報を地域へ発信
	機関紙やホームページの積極的な活用	① リニューアルした機関紙の記事内容の検討と継続発行 ② 分かりやすく読みやすいスマートな機関紙作成の検討

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
外部・内部リスクに対して早期対応	利用者懇談会・運営会議を実施し、利用者との情報の共有を実施	① 利用者懇談会・運営会議で得た各利用者の要望やニーズなどの情報を分析し、課題改善を早期に実施 ② 利用者自治会や家族会と、適時話し合える機会を持ち、施設の課題改善を実施
	苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施し早期解決	① 第3者委員・利用者自治会の参加のもと苦情解決委員会・虐待防止委員会を行い、苦情及び虐待に関する情報共有と課題解決に向けた取組みを実施 ② 定期的に研修を実施し、虐待防止意識の向上及び適切な身体拘束に関わる知識の学習

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
	介護事故対策 の実施・事故発 生時の対応マ ニュアルの作 成	①第 3 期から把握してきた、事故・ヒヤリハット統計データを詳細に分析し、歯止め対策を実施
な 活 用 の 積 極 的 な 活 用	成年後見制度 の積極的な活 用	①利用者の重度高齢化及び家族の高齢化に伴い、成年後見制度活用の必要な利用者を把握し、積極的に制度の活用を推進

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 和生園
施設長 松本 雄二

和生園の基本方針

1. 利用者一人一人の可能性と無限性を求めます。
2. 個々のニーズに応えるべく高い専門性を持ったチーム支援を実施します。
3. 地域に支えられ、地域の信頼に応え地域と共に歩みます。

グループホームもみの木・かしの木の基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権を尊重し、自立へ向けての個別支援を行います。
2. 利用者が、安全・安心・快適な生活を送られるように支援します。
3. 地域との連携を重視し、地域に根ざしたホーム作りに努めます。

2021 年度の事業計画について

第4期中期計画のビジョン「一人一人がストレングスを活かした自己実現と仕事を通じた社会とつながる施設を目指します」の達成に向け、各事業、今年度は下記の件に重きを置いて進めてまいります。

就労継続支援B型事業では、昨年度より朝来市農林振興課支援の下、地元農業生産者に協力する形（農福連携）で農業に着手しました。これからもこの形を大切に、地場産業である農業の担い手として地域から認められる施設となります。また、新たな農業への取り組みとして、農地取得とその活用に向けて、農業の形態や作付け農産物の決定等を計画的に推進します。

就労移行支援事業では、コロナ禍で実績を向上させることが困難であった昨年度の経験を踏まえ、IT機器の活用や職場実習及びトライアル雇用を有効的に機能させて就職へと繋げ、その後を就労定着支援事業でサポートすることで、シームレスの就労支援を実施します。

共同生活援助事業では、ご利用者の安心で安全な生活の確保を目的として、夜間支援体制の強化を図ります。具体的には、これまでは24時間の連絡体制確保のみに留まっていたものを、夜間支援従事者として宿直者を配置し、緊急時対応の強化と迅速化に努めます。

また、業務改善の取り組みとして、各種帳票のペーパーレス化を推進します。これまで紙ベースで保存していた種々な記録や報告書等を電子印鑑決裁によりデータ化することで、業務の効率化と事務費や書類保管庫のスリム化を進めます。

事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	就労継続支援B型	34名	知的・身体障害者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	就労移行支援	6名	知的・身体障害者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	就労定着支援	—	知的・身体障害者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	共同生活援助	17名	知的・身体障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

ひとり一人がストレングスを活かした自己実現と仕事を通じた社会とつながる施設を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
理念の理解と実践	施設内理念研修の実施	① 施設内理念研修会開催（1回/年）
	理念研修への参加	① 職員を派遣
	神戸聖隷ハンドブックの活用	① 3か月毎の職員会議で活用（4回/年）
	ご利用者への困り事への柔軟な対応	① 困り事調査と対応（9・3月）
理念を地域や利用者にも広報	和生園・GHの広報紙の継続と発行	① 広報紙「かける」発行（12月）
	施設内へキリスト教を象徴した掲示物等の工夫	① 掲示

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
十分な人材確保	職員確保の工夫	① 職員確保
	様々なメディアにて求人を実施（GH世話人・夜勤者 or 宿直者を含む）	① ハローワーク、新聞折り込み等を活用し求人を実施 ② 夜間支援体制加算Ⅱの取得
づくりある職場働き甲斐の	勤務時間の見直しと業務の改善について検討	① 業務の改善について検討 ② 勤務時間帯の変更 ③ 電子印決裁とペーパーレス化（ケア記録より）

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
働き甲斐のある職場づくり	新人・新任職員マニュアルの整備	① マニュアル（エルダー制度等）の運用と見直し
新型コロナ禍での有効な人材育成	専門的知識の習得 (Web 研修を活用して外部研修会への積極的な参加)	① Web 環境の整備 ② Web での研修会参加

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
利用者主体の就労支援 (製袋を含む)	現状に併せた作業の開拓	① 新作業の確保と農福連携の具体化
	安定した製袋作業の定着	① 年間受注数の生産と単価の交渉
	新工賃システムの定着	① 定着
障害の多様性に対応した知識の習得	計画的な外部研修会参加と伝達研修の徹底	① 職員毎の研修計画立案と派遣、伝達研修実施
	虐待防止勉強会の開催	① 勉強会の開催
支援体制の強化	(GH) 夜間支援体制の向上と実施	① 夜勤（宿直）業務開始
	(GH) 世話人の確保	① 職員体制（世話人）、5 : 1 の維持
	客観的なサービス評価	① グループホームもみの木・かしの木、第三者評価受審

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
施設独自の送迎システムの検討	ニーズに応じた送迎サービスの実施	① 送迎開始
	送迎体制の整備	① 送迎方法、コースの決定
	交通安全教育実施による安全運転意識の充実	① 安全運転講習会開催(7月)と危険個所の共有
安定した収入の確保	月額平均工賃22,000 円の確保	① 作業に係る情報収集と渉外 ② 目標工賃達成指導員の業務改善 ③ 農林振興課、農業生産者との合議による作業価格の交渉
	目標利用人数の達成	① 利用ニーズに合わせた柔軟な対応 ② 山東町方面の利用者へ向けた、事業案内の実施 ③ グループホームめぐみ利用者の、日中活動の場として利用を進める

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
(和生園・第2和生園) 地域清掃活動の継続	地域清掃活動の継続(第2和生園)	① 毎週火曜日に実施
	資源回収へ人的、物的労力での協力を継続(和生園)	① 資源回収への人的、物的協力の提供(5・10・3月)
	地区行事への積極的な協力	① 地区行事への協力

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域ニーズに対応した協働	秋葉台3区ボランティアサークルへ活動お手伝いの申出と活動への協力	① 秋葉台3区ボランティアサークルへお手伝い
	自立支援協議会への積極的参加	① 朝来市自立支援協議会に積極的に参加

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
働き方改革への取り組みの継続	無賃残業ゼロの徹底	① 勤怠管理システムとセキュリティ施錠時刻の突合
	働き方改革に対する知識と意識の向上	① 施設内研修の実施（6月）

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 北但広域療育センター
 施設長 久木田 憲彦

北但広域療育センターの基本方針

1. 利用者の人権を尊重して、利用者が全人的に生かされることを目指して支援します。
2. ICF の障害観点に立って、生活、環境をも考慮した質の高いサービスの提供を目指します。
3. 北但馬の療育の中核として、職員の専門性の向上を図り、地域（教育、医療、福祉、家庭）との連携体制の構築を図ります。
4. キリスト教精神を持って、日々、利用者と接します。

2021 年度の事業計画について

今年度からの報酬改定により、特別な支援を必要とする個別サポートや専門的支援についてより評価されることとなり、これまで北但広域療育センターが実施してきた地域での療育の中核をなす活動をより強固とするために、専門家集団によるサービス提供体制の確立と、示された運営基準を順守した事業運営を目指します。

療育の場面では、外部ソフトの導入によるアセスメントの数値化・視覚化による専門性の向上に加え、教材・研修サービスの活用による質の向上を図るとともに、記録業務等の効率化や職員間の情報共有を推し進め、より信頼される療育システムへの改善を目指します。

関係機関と連携しながら、利用ニーズに即したサービス利用へつなげる事の出来る相談支援体制の再構築を図るとともに、円滑な医療・療育・相談支援の提供を目指し、地域への情報発信や理解を深める活動も継続して実施します。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
指定障害児通所支援事業	児童発達支援センター 保育所等訪問支援事業	20 名	幼児
指定障害児者通所支援事業	生活介護事業 放課後等デイサービス事業	8 名	重症心身 障害児者
指定相談支援事業	指定一般相談支援事業 指定特定相談支援事業 指定障害児相談支援事業	—	身体障害児者 知的障害児者 発達障害児者
ひょうご発達障害者 支援センター運営事業	ひょうご発達障害者支援センター 豊岡ブランチ	—	発達障害者
診療所	風（ふう）発達クリニック	—	小児科 精神科 神経内科
指定障害児通所支援事業 (奈佐事業所)	放課後等デイサービス事業	10 名	児童

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

専門家集団として、地域から求められる役割の明確化とサービス提供体制の確立。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
日々の業務の中で理念が結びつき実感できる組織づくり	理事長・牧師との相互交流による理念の浸透	① 職員会議にて理事長による講話を実施 ② 職員会議にて牧師による講話を実施
	法人内外への理念研修への参加	① 他法人理念研修への参加メンバーの選定 正規：浜松、非正規：県内 ② 職員会議での伝達研修による情報共有
	基本理念に基づく部門ごとの基本方針の策定	① 基本方針の職員間の共有と、保護者・家族への周知

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
専門職の専門性向上と職種間の情報共有強化	外部研修への積極的参加と内部研修の実施	① 年間研修計画に沿った外部研修への参加 ② 計画的な内部研修の実施
	近隣施設の見学による体制強化	① 近隣施設の見学と連携強化
適正な職員配置の検証と育成システムの構築	職員の定着による後継者育成	① エルダー制度の実施 ② 事業ごとのチェックリストの作成
	指定管理下の職員配置基準見直し交渉	① 職員の適正配置について検討 ② 必要に応じて指定管理の配置基準について市と交渉

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
た ソフトを 専 性を活用し 門 性の向上 性 の向上	外部ソフトの導入による一部アセスメントの数値化と視覚化	① 療法士個別での継続実施 ② 導入効果の検証 ③ 療育での試行
ヨ の重 ン 症 支 コミ 援 ミニ の ャー 充 ケー 実 シ 者	コミュニケーション機器についての情報収集及びそれら先進機器の導入と活用	① 使用方法について職員間で共有 ② 様々な活用方法の検討 ③ 先進機器の視察を実施
保 保 護 護 者 者 同 へ 士 の の 連 情 携 報 支 提 援 供 と	保護者への情報提供とニーズへの適切な対応	① SNS を活用した情報提供の実施 ② オンラインと並行した保護者会の開催
	保護者同士のつながりを持てる場の提供	① 保護者同士のつながりを持てる場の開催 ② テーマ、目的別の勉強会の開催
セ ン タ ー 内 の 環 境 改 善	老朽化対策と療育・相談スペース拡大の検討	① 改善箇所について検討 ② 相談スペース拡大について検討 ③ 必要に応じて市へ提案し協議
	円滑な事業実施のための新規スペースの検討	① 新規スペースの検討

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
の セン 改 の タ 善 組 ー の 織 内 環 環 境 境	組織再編による加算取得	① 療育のスペース確保による加算算定 ② 新規スペースでの体制充実と相談スペース確保による加算算定
上 利 利 用 用 率 率 の の 向 向	療育体制の向上	① 研修ソフトによる療育体制の向上 ② 魅力のあるプログラム提供による利用目的の明確化

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
力の向上 一般住民の認知と地域支援	一般市民や一般企業を対象にした啓発のための講演会・研修会の実施	① 関係機関、地域への講演会・研修会開催に関する情報収集 ② 講演会・研修会の開催
	よりわかりやすく活動目的、内容を PR するための最新の情報発信方法の導入	① ホームページの有効活用 ② PR 手段の情報収集
総務の組織再編 （医療・相談・療育・地域のうちの事業展開）	地域ニーズの充足と安定した経営の両立	① 関係機関からの情報収集 ② 新規スペースでの事業展開を市町と協議
	効率的な事業運営	① 新規スペースでの効率的な事業運営に向けた検討

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
の実現 よる働きやすい職場 組織体制の再構築に	正規職員、非正規職員を適正に配置した組織づくり	① 法人新体制に応じた組織体制のイメージ作成
	雇用形態に応じた明確な職務分掌の作成	① 雇用形態に応じた職務分掌の分析 ② 業務が偏らない適正な職務分掌の実施
務の効率化 業務量の把握による業	業務内容の把握と整理	① 各事業の業務内容の課題を整理
	療育に特化したソフトの導入による療育の質の向上と業務効率化	① 研修ソフトの計画的活用 ② 支援スキルの療育へのフィードバック
報伝達と共有 のスムーズな情報伝達	各部署内、部署間でのスムーズな情報伝達・共有を進めるためのソフト導入	① 記録マニュアルの再策定 ② 記録ソフトの導入 ③ 記録ソフトの活用と振り返り

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 エスポワールこじか
施設長 伊崎 辰夫

エスポワールこじか基本方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、専門性を生かした支援を目指します。
2. 利用者の個性及び人権を尊重し、健やかな成長に向けて総合的に支援を行います。
3. 地域の保健・医療・福祉等との綿密な連携を図り、地域と共に歩む施設を目指します。

2021 年度の事業計画について

第 4 期中期計画は「次期世代育成の基礎を固める」ことを目標にしています。こじかでは、今まで決まったことの継承の育成をしていましたが、これからは継承だけでなく、幅広く変化を受け入れ、一人ひとりが考えて行う、スキルアップを自ら考え実行できる力を身に付けることを目指します。昨年はまず手始めに施設内 OJT の方法やスタッフ評価、療育プログラムの多様性などに取組みましたが、まだまだ方向が見えた程度ですので、今年は兎に角、実践してみることを大切に更に変化を受け入れることに挑戦します。

まずは、多様な療育プログラムの実践。児童の必要性や将来性を見据えた目的ある母子分離、外出やクッキング、外部講師による体操や音楽、季節行事などの活動に取り組み、毎日同じから、十人十色の児童の特性におけるステップアップを自ら考え、臨機応変に対応できる力を身に付けられるよう努めます。

次に、OJT（施設内育成）の実施。全員への OJT（保護者学習会講師、施設見学案内、園校への単独訪問、会議運営など）、正規職員への OJT（児発管としての育成、アセスメント、支援計画作成、地域会議など）、相談支援業務の OJT（内容の共有など）。将来の安定的運営のために複数業務を身に付け、スキルアップを図ります。

また、活動時間の見直し（流れ・時間の無駄）、全員一緒の活動の見直し（人の無駄）、書類や書式の見直し（物の無駄）を行い業務の効率化を図ります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
指定障害児通所支援事業	・ 児童発達支援 ・ 放課後等デイサービス	10 名	児童
指定相談支援事業	・ 指定障害児相談支援事業 ・ 指定特定相談支援事業	—	児童

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

地域に必要とされる資源(物も人も)になる。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
理念の理解	理念の研修、ハンドブックの活用	①理事長・牧師等による理念勉強会の実施 ②ハンドブックの職員会議での活用
理念の浸透	聖書の唱和基本理念の唱和	①聖書・基本理念、運営方針、平和を求める祈りの朝礼時唱和

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
研修の充実	施設内研修の充実	①自身の検証と振り返りの継続 ②伝達研修の実施 ③スーパーバイズによる研修 ④ケースカンファレンス
	専門研修の参加奨励	①強度行動障害支援者養成・発達障害実務者養成研修等の受講 ②虐待防止チェックリスト実施、虐待防止研修の実施 ③虐待対応力向上研修
スキルの上	地域に出向いてスキルアップを図る	①園校に依頼による派遣と評価の実施 ②のびのび教室等への協力
	施設内での役割の明確化	①OJT（施設内教育）の推進 ②評価の継続と評価方法の検証

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
への放デイへの協力のめぐみ	放課後等デイサービスの準備協力	①活動内容やスタッフ交流 法人内児童施設との連携
保護者支援の継続	保護者勉強会の実施	①6 回以上の保護者学習会 ②小グループ勉強会の実施
	満足度アップ	①満足度調査実施と HP への公表 ②年 2 回の保護者面談実施 ③ボランティアの開拓（個人、団体へ依頼）
充実相談支援の	なんでも相談の実施	①なんでも相談の随時対応
	医師による相談支援	①毎月の Dr 療育相談継続
幅を療育プログラムの広げる	個々に必要な支援計画の作成	①超早期療育継続 ②多様な療育プログラムの計画との実施 (母子分離、外出、季節行事など)

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
利用者の確保	目標の設定と達成	①目標利用人数の達成 1, 948 人 (84.0%) ②サービス利用計画 70 件、継続サービス利用計画 143 件
	保護者希望時間の配慮	①欠席による振替実施率 30%の達成
の委託事業の継続	専門療育の実施	①毎月の事業報告と市町による評価の実施
の経営意識の向上	経営状況を意識する	①毎月利用状況の共有（人数と収支）の報告 ②予算、中間決算など経営状況報告

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
関係機関への協力と連携強化	地域関係機関との良好な関係作り	①園校訪問、参観の実施 ②養父市、朝来市、香美町自立支援協議会への参画 ③その他関係市町の委員会・協議会等への協力
地域への周知	オープン療育実施	①オープン療育計画と実施
	情報発信ツールの見直し	①パンフレット都度見直し ②ホームページの活用内容検討 ③こじか便り毎月発行

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
ワークライフバランスの推進	労務管理の徹底	①有休消化率 60%達成 ②ノー残業デーの徹底
	業務の効率化	①時間の有効活用の検討と検証 (時間、人、物の無駄を考える)
コンプライアンスへの取組	リスクの意識付け(ヒヤリハット、事故、苦情、個人情報など)	①リスクの勉強会の計画と実施 ②避難訓練への取り組み(年2回の訓練実施)

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖生園
施設長 西郷 昌一

神戸聖生園の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 本人・家族の思い、また将来の夢や希望の実現に向けたサービスを実施します。
3. 全スタッフが力を集結し、総合力を持ってチームとして支援を実施します。
4. 「利用者主体」を支援のキーワードに、利用者参画が見える支援を実施します。
5. 地域行事・活動へ計画的に参加し、利用者が地域の役割を果す支援を実施します。
6. 利用者の安心・安全を守るため、建物・設備の改修を計画・実施します。

2020年度に就労継続支援B型と生活介護の多機能型施設から生活介護単独事業に変わりました。基本方針の一つにあるように、一人一人の利用者の思いを大切に個別支援に重点を置き、支援をしてきましたが、新型コロナの影響により、特に対人関係を重視する支援は思うようにできませんでした。

今年度は、従たる事業所「せきもり」の廃止をすると同時に、定員 60 名に変更します。より利用者のニーズに合った支援のために、マイプログラムの充実を中心にして、利用者の幅広いニーズに応えられるよう支援体制を充実します。また、施設内の設備や利用者にとって快適に過ごせる場所づくりを検討していきます。

神戸聖生園は法人にとって、神戸地区 1 号施設であり、かつて障害者就労の先陣を切って歩んでいた時期があります。今後は、生活介護において先駆的な働きができるよう、コンサルテーションを受けるなどあらゆる手段を講じて専門性の向上に努めます。

また、聖隷オアシスの建築に伴い、既存の通称プチハウスや温室、倉庫などが撤去されました。今年度はこの空き地の利用について利用者の居場所づくりの為、建築の専門家の知恵をいただきながら、空間づくりを準備してまいります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	生活介護	60名	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

(1) 基本理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
会を持つ キリスト教に触れる機会	法人の原点を知る 黎明期の法人を知る方から話しを聞く機会を持つ	①歴史資料館訪問と顧問、理事による黎明期の話を受講（4名）
	キリスト教基礎研修の参加	①キリスト教基礎講座に参加（2名）
持つ 基本理念に触れる機会を	基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（各々1回/週）
	牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習 ②聖書の奨励を紙面を通して実施。

(2) 人材育成・人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
研修の実施	・研修の実施 新人向け、虐待防止 接遇面等	①内部研修の実施 新人向け（虐待防止、接遇面） ②外部研修の実施 専門性等（自閉症スペクトラム、高齢化の対応）
	・生活介護施設の見学	①3名以上の職員が生活介護施設の見学実施
	・外部研修報告/ 施設見学報告	①研修報告の実施
人材確保	実習生の受け入れ	①実習生の受け入れ調整 ②実習先との連携強化

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
活動プログラムの充実	活動班の枠を超えた連携	①各活動班の連携会議の実施（1 回／月） ②計画的な活動プログラム
	日帰り旅行の実施	①日帰り旅行の実施方法について協議し、実施
	紙すきの安定した活動	①紙すき対応職員のシフト固定実施 ②質の向上、商品化、販売ルートを協議 ③幅広い利用者の参加
整備ハード面の	休憩できる場所の確保	①温室跡、プチハウス跡を有効利用し、利用者や職員の休憩場所などに利用するための協議を実施 ②新設建物の設置について検討実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
機会アピールの	外部向けアピール	①職員名札の使用の継続 ②ユニフォームの導入 ③花壇整理
の 実施 の 分析	職制会での収支分析・加算等の周知	①職制会にて収支状況の確認と分析、報告、対策の協議
	祝日開所の継続	①祝日開所の実施
検討営業時間の	営業時間を 15:30 までとすることを検討する	①検討会議の継続 サービスの質としての是非の検討 利用者、家族に理解してもらえるように 職員間で協議

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
地域交流	プランターで花を育てて地域に設置や配布	①花をそだてる（プランター設置） ②地域にてプランターの設置の依頼、実施
	地域ニーズに沿った、交流	①神戸聖生園が実施できる内容の検討 ②地域ニーズの把握と掘り起こし
地域貢献	ゴミステーション清掃の実施	①毎週月曜日の清掃実施

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
安心・安全の取り組み	避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練の実施
	感染症対策の実施	①感染症対策の実施 ②備品の備蓄管理
	パソコン（WIN7）への対応	①4台

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
事業所名 グループホームせいれいやまて
管理者 西郷 昌一

グループホームせいれいやまての基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供するために環境整備を実施します。
3. 利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
4. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
5. 世話人・支援職員らが協力して支援内容を工夫し、温もりのある事業所を目指します。

新築物件へ移転し、今年度半ばには3年目を迎えます。利用定員について、初年度7名、2年目以降10名で計画していましたが、支援員の確保が難しく、定員の増員ができませんでしたが、ようやく職員の確保がかない、6月より増員をすることになりました。

職員、利用者とも増員をすることになりましたが、一人一人への支援の質を高めるため、職員の専門性向上を目指し、基本理念の理解や各種研修も強化し、職員の意識を高めていきます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	共同生活援助	7名 6月より 10名	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

(1) 基本理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
基本理念に触れる機会を持つ	基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①職員会議において、基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）
	牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習

(2) 人材育成・人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
人材育成	専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③世話人・支援員とのミーティング継続 ④バックアップ職員と情報共有継続

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施
	利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施
	安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①家族会の実施 ②定期的訪問・顔の見える支援（2回/月の実施） ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難経路の掲示

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
経営	利用率の確保	①目標利用率 81% ②週末帰省の短縮に向けての支援 ③週末帰省のない利用者対応を含め 365 日開所を継続
	支援者の安定的雇用	①支援者間の連絡・調整の実施 ②職員の給与・残業等の検証とコストカット
	バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理）継続
	職員の増員	①利用定員を 10 名にするため、職員増員対策強化

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域交流	地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供（自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等）
	環境美化	①除草の実施（年 2 回）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
り安心 組み・安全 の取	避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施（計 2 回/年）
	感染症対策の実施	①新型コロナへの対策 ②その他の感染症対策の実施

2021年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームたいのはた東
管理者 西郷 昌一

グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的な人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

昨年度は新型コロナが流行し、当初予定していた体験型利用がほとんどできない状況になりました。今年度もこの事業は進めていきますが、新型コロナの流行に伴う緊急事態宣言の発令などが続いており、サービスの提供ができるかどうか懸念される所です。このような状況が続く中での体験型利用のありかたについて考えていきます。また、体験型利用についてニーズなどによる必要性についても考えていきます。

多井畑東町での生活も落ち着き、地域の一員としての市民権を得られつつあることから、さらに地域清掃や夜間防犯巡回などの地域活動に積極的に参加していけるよう支援していきます。

人材育成に力を入れ、基本理念の学びの機会や各種研修に積極的に参加し、総合力で支援できるようバックアップ施設と連携し歩んでいきます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	共同生活援助 (体験利用型)	6名	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

(1) 基本理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
持つ 基本 理念 に触 れる 機会 を	基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）
	牧師、理事を通じて基本 理念の連動性を学び、職 員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性につ いて学習

(2) 人材育成・人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
人 材 育 成	専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③定期的なミーティングの実施（毎月第3金 14:00～ ④バックアップ職員と情報共有継続

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
サー ビス	権利擁護・虐待防止のた めの支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第3金)の 実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施
	利用者の健康状態に応じ た支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施
	安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理 責任者の働き)	①定期訪問・顔の見える支援（2回/月） ②地域の方たちとの関係構築、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施（2回/年）避難経路の掲示

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
経営	利用率の確保	①利用率 85.6%維持を目指す ②体験型利用者受入れを延べ利用数 10 日／月を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④350 日開所を目指す
	コスト削減	①消耗品や調味料などの無駄を省く努力 ②水光熱費等の節約 ③残業等の見直し
	支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材（知人等）情報の収集と確保
	バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員への支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理） ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ④環境美化・除草の実施（毎月）
	体験型利用の見直し	①開所以来の体験型利用の継続について検討

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
地域交流	地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供（自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等）
	環境美化	①除草の実施（毎月）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
り安 組心 み・ 安全 の取	避難訓練の実施 防犯 訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施（2回/年）
	感染症対策の実施	①新型コロナへの対応 ②その他の感染症対策の実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸愛生園
施設長 加藤 航

神戸愛生園の基本方針

1. 唯一無二の存在である利用者の命を守り、その人らしい生活が送ることができるように支援します。
2. 態度、言動がどのような影響を与えるかよく考え、人権に配慮したケアに努めます。
3. 利用者のニーズに基づき、従来からのサービスに固執せず、神戸愛生園の総合力を持って柔軟にサービスを提供します。
4. 施設機能の情報提供、相談を積極的に行い地域に必要とされるよう努力します。

2021 年度の事業計画について

今年度も新型コロナウイルスの脅威は去らず、有効な治療法が確立されていない現状、引き続きある程度の制限のある中での運営を行っていくこととなりそうです。そのような中でも少しでも前向きに取り組んでいきたいと思えます。

2019 年末にインドネシアより迎えた 2 名の EPA 職員も 2 年目となります。業務も一人立ちしました。それとともに勉強面、生活面も引きつづき支援していきます。EPA は昨年度もマッチングに成功し、2 月には 3 人目の女性職員が着任予定です。安定的な人材確保のため、今夏もジャカルタでの現地面接会に参加します。

昨年度ご利用者の成育歴にフォーカスを当てた取り組みが大きな成果を得ました。今年度はそれを基礎にし、外部講師による研修などを通し、利用者支援の立て直しを行っていきます。また次世代のリーダーを育てるべく取り組んでまいります。

新型コロナウイルスを含む感染症対応については昨年度感染対策マニュアルを改めましたので、それに沿ったアクションを行っていきます。またコロナ禍で利用を制限した短期入所事業の受け入れ指針を新たに設定し、安全に配慮した上で少しでも多くのご利用者をお受けし、使命を果たせるように致します。今年度中にはワクチンの接種が視野に入ります。コロナ後も視野に入れつつ、ご利用者が安心して神戸愛生園を利用し、その中でも少しでも充実した生活ができるよう取り組んでまいります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	生活介護	60 名	身体障害者
障害者支援施設事業（第 1 種社会福祉事業）	施設入所支援	50 名	身体障害者
障害福祉サービス事業（第 1 種社会福祉事業）	短期入所	5 名	身体障害者
神戸愛生園診療所	公益事業	—	—

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

「ここにいて良かった！」といえる施設作りを目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
方針の浸透 神戸愛生園基本 法人基本理念・	業務内で理念を意識化する工夫	①アピールボードに基づいた業務遂行 ②支援実施書に全人的要素を盛り込んだ書式に改訂 ③理事長による理念研修
の獲得 更なるEPA職員	更なるEPA職員の獲得	①1名マッチング ②メニューの見直し

(2) 人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
づくり 人財確保・定着 (魅力ある職場)	コンサルティング、研修等、外部資源活用 の検討	①第三者評価受審
	近隣学校へのアプローチ(大学・専門学校にアルバイト募集)	①新型コロナウイルスの感染状況や学校の状況を踏まえ対応していく
明確化 キャリアアップの	スキルアップ・キャリアパスの明確化	①運用・評価・見直し
できる環境の整備 EPA職員が安心して 就労・就学・生活が	EPA職員が安心して就労・就学・生活ができる環境の整備	①EPA職員の業務履修サポート(就学含む)と不安・困りごとの解消

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
終末期ケアを考える	生育歴を通して、QOL、終末期を考える	①神戸愛生園での看取りの可否の判断 ②エンディングノートの作成 ③全利用者の生育歴調査
	援助技術の向上	①介護技術向上研修継続実施 ②相談援助技術勉強会（テーマ別で実施）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
事業収入を安定させる	感染予防の取り組み強化	①感染症マニュアルの運用、改訂 ②感染防止対策訓練実施
	SS 受け入れ体制の改善	コロナ禍の中、受け入れ基準を定め、受け入れていく
ICT, IoT の活用	ICT, IoT の活用	①ナースコール、インカム、眠りスキャンの連動活用

(5) 地域の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域との共生	地域行事への参加	①コロナ感染状況を踏まえ、地域行事への参加
	福祉避難所としての環境整備	①必要備品の整備 ②災害時の対応マニュアル見直し
広報活動の充実	広報活動の充実	①フェイスブック・インスタグラム更新 ②機関紙発行

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
職 場 づ く り 安 全 で 魅 力 あ る 業 務 改 善 に よ る、	指 導、育 成時 間 捻 出 の た め の 業 務 分 析、改 善	①定期的に職制による面談機会の確保
の 着 手 て 替 え へ 施 設 の 建	建 て 替 え 委 員 会 の 継 続 開 催	①資金計画の策定

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 きたすま障害者相談支援センター
施設長 三木 卓也

きたすま障害者相談支援センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者（児）とその家族等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係諸機関との連携を図り、障害福祉サービスの利用援助（サービス等利用計画の作成を含む）等適切な支援を行います。
2. 相談者の意思及び人権を尊重して障害特性や本人・家族のニーズ等を的確に把握し、公正・中立性を保ちつつ常に相談者の立場に立った地域生活支援の提供に努めます。
3. 相談者やその家族等のニーズ、想いを受け止め、適切な助言や情報提供等の支援ができるよう、職員の専門性の向上に努めます。
4. 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域を目指し、須磨区自立支援協議会の事務局として活発な運営を専門性とチームワークで行います。

2021 年度の事業計画について

第 4 期中期計画（2020 年～2022 年）の 2 年目を迎え、神戸市からの委託契約（2021 年～2025 年）の初年度となります。引き続き事業を継続運営できることに感謝し、第 4 期中期計画のビジョンに掲げる「不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンターを目指します」の実現に向けてチャレンジしていきます。

少子高齢社会により核家族化が進み、家族関係をはじめとする人間関係の希薄化や社会とのつながりが弱まり、複雑かつ既存の制度だけでは対応が難しい深刻な問題を抱える相談が増えている傾向が見られますが、相談に至った背景や経緯を丁寧に聴き取り、困りごとや思いを親身に受け止め、地域の関係機関と連携した相談支援を心がけます。

一方で、相談者との関係性が大きな要素を占める相談支援の特性を踏まえ、スーパービジョンによるサポートや OJT、外部研修への積極的参加や内部研修の実施を定期的かつ継続的に実施し、相談員自身の自己覚知、センター全体の相談支援力の向上、安心して働き続けることができる風通しの良い職場環境づくりに努めます。

社会全体がこれまでの生活スタイルや行動様式を見つめ直す必要性に直面している状況ではありますが、人と人との“つながり”を大切にして、障害のある方やご家族が困った時に気軽に相談できる地域の身近なセンターを目指します。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
地域生活支援事業	委託（神戸市） 相談支援事業	—	身体・知的・精神・発達・難病
障害福祉サービス事業	指定（特定・一般・障害児）相談支援事業	—	身体・知的・精神・発達・難病

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンターを目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
法人理念の浸透と権利擁護の実践に向けた取り組みの実施	価値観と出会う場面の提供	①基本理念の唱和（月2回） ②年間聖句の掲示（年間） ③理念ハンドブックの輪読（月1回）
	理念に触れ学ぶ機会の提供	①権利擁護研修（内部）の実施（年1回） ②各種理念研修（外部）への参加（1人/年）

(2) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
相談支援力の向上に向けた取り組みの実施	相談支援スキルの共有と向上	①ケース会議の開催（月1回）
	研修機会の提供	①研修（内部）の実施（年2回） ②研修（外部）参加（適宜）
	権利擁護と相談支援の質の向上	①虐待防止チェックリストの実施（年2回） ②顧客満足度調査の実施（年1回）

(3) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
委託事業の公正かつ確実な取り組みの実施	事業の継続受託	①事業の安定運営（2021 年度～2025 年度）
	各委託調査の確実な実施	①障害支援区分認定調査（12 件／年） ②障害福祉サービス勘案調査（360 件／年） ③移動支援サービス聴き取り（2 件／年） ④訪問入浴サービス聴き取り（2 件／年）
計画相談支援（個別報酬）ニーズに対応した取り組みの実施	加算要件を満たす体制の維持	①主任相談支援専門員研修の受講（1 名／年） ②相談支援従事者現任研修の受講（1 名／年） ③加算研修（行動、要医療ケア、精神）の受講（各 1 名／年）
	個別加算の取得を推進	①個別加算（モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所）の取得（7 件／月）

(4) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
相談支援人材の確保・育成に向けた取り組みの実施	スーパーバイズの実施と強化	①個別スーパーバイズの実施（2 か月ごと年 6 回）
	定期ヒアリングの実施	①定期ヒアリングの実施（4 か月ごと年 3 回）

(5) 地域の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
近地としての地域の取り組み	制度の狭間にある生きづらさを抱えた方への対応	①ニーズ把握と整理 ※地域貢献部会と連動
地域と積極的に交流する活動の実施	須磨区自立支援協議会の積極的な取り組み	①全体会／運営委員会の開催（年1回／年4回） ②作業部会（就労、共生、販路拡大、学習、親子、相談）の実施（適宜） ③発達の気になる保護者向けのピアカウンセリングの実施（年9回）
	地域福祉ニーズに応じた支援の実施（公益的取り組み）	①ほっとかへんネットすま役員会、コア実務者会への参加と連携強化 ②具体的な取り組み内容の協議

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
働きやすい職場環境への取り組み	業務改善の取り組み	①実態把握と整理（担当ケース数、調査担当件数、計画担当件数、休日出勤日数、夜間電話当番回数）
	働き方改革への対応	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得（最低5日以上） ②各職員の超過勤務時間10時間以内（月） ③WLB推進に向けた研修の実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖隷総合相談センター
施設長 三木 卓也

神戸聖隷総合相談センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供等、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう相談支援を行います。
2. 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えます。
3. 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談の対応、ニーズの把握に努め新たなサービスを創造します。

2021 年度の事業計画について

第4期中期計画（2020年～2022年）の2年目を迎え、事業開始6年目を迎えます。今年度、念願であった「神戸聖隷オアシス」（友が丘総合事業）の開所に合わせて事務所を移転し、第4期中期計画のビジョンに掲げる「障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンターを目指します。」の実現に向けて、本来的な使命である地域の福祉ニーズに対応した取り組みにチャレンジしていきます。

具体的には「神戸聖隷オアシス」1階の「Tunagari～あつまり処」において、一人暮らしの方や引きこもりがちの方や様々な理由で家族が不在がちなため独りで食事をとらざるを得ない状況の子どもなど、児童から高齢者まで世代を問わない方々に向けた“だれでも食堂”の展開を準備し、その取り組みを通じて地域の福祉ニーズを把握し、地域貢献活動の取り組みを進めていきます。

また、法人内事業所のご利用者を中心に約290名の方々の計画相談支援サービス（サービス等利用計画）を担当させていただき、ご利用者ご家族お一人おひとりの希望する暮らしに向けて必要な福祉サービスの利用調整や丁寧な情報提供を心がけます。また、思いがけない生活状況の変化や困りごとが起こった際にも、意向に沿った速やかなサービス調整を図り適切な相談支援に努めます。

近年、加齢に伴う障害の重度化やご家族の高齢化が進み、親なき後の安心・安全な生活という大きなテーマが社会化していますが、権利擁護の観点から、成年後見制度活用推進委員会と協働のもと成年後見制度に関する研修会を実施して制度理解を深めるとともに、具体的に制度の利用を希望されるご家族の申立て等の支援にも対応していきます。

社会全体がこれまでの生活スタイルや行動様式を見つめ直す必要性に直面している状況ではありますが、事業の本来的な使命である地域の福祉ニーズに対応した「よろず相談」としての役割を果たすための礎の年として位置付け、「Tunagari～あつまり処」での“だれでも食堂”の取り組みと連動しながら、地道に相談支援体制の充実を図り、地域の関係諸団体との交流や参加を通じた発信に努め、地域の身近な相談窓口として浸透することを目指します。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業	指定(特定・一般・障害児)相談支援事業	—	身体・知的

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンターを目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
法人理念の浸透と権利擁護の実践に向けた取り組みの実施	価値観と出会う場面の提供	①平和を求める祈りの唱和(月2回) ②年間聖句の掲示(年間) ③理念ハンドブックの輪読(月1回)
	理念に触れ学ぶ機会の提供	①権利擁護研修(内部)の実施(年1回) ②各種理念研修(外部)への参加(1人/年)

(2) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
相談支援力の向上に向けた取り組みの実施	相談支援スキルの共有と向上	①ケース会議の開催(月1回)
	研修機会の提供	①研修(内部)の実施(年2回) ②研修(外部)参加(適宜)
	権利擁護と相談支援の質の向上	①虐待防止チェックリストの実施(年2回) ②顧客満足度調査の実施(年1回)

(3) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
計画相談支援（個別報酬）ニーズに対応した取り組みの実施	計画相談支援、モニタリングの確実な実施	①サービス利用支援（268件／年） ②継続サービス利用支援（375件／年）
	加算要件を満たす体制の維持	①相談支援従事者現任研修の受講（1名／年） ②加算研修（行動、要医療ケア、精神）の受講（各1名／年）
	個別加算の取得を推進	①個別加算（モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所）の取得（12件／年）

(4) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
相談支援人材の確保・育成に向けた取り組みの実施	スーパーバイズの実施と強化	①グループスーパーバイズの実施（毎月）
	定期ヒアリングの実施	①個別定期ヒアリングの実施（4か月ごと年3回）

(5) 地域の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
地域における身近な相談窓口としての取り組み	地域の関係機関とのつながり強化	①北須磨団地自治会ふる里まつり、運動会への参加（各年1回） ②「地域支え愛学習会」への参加（年2回） ③地域包括ケア会議（介護保険）への参加（年2回）
	神戸聖隷オアシス（友が丘総合事業）に係る地域貢献活動への取り組み	①事務所移転 ②地域への広報活動と地域ニーズの把握 ③「Tunagari～あつまり処」にて“だれでも食堂”の実施
親（家族）なき後の生活に対する権利擁護への取り組み	成年後見制度の理解・啓発と利用の促進	①成年後見制度勉強会の開催（年1回） ②申立て支援の必要性の高いケースの把握と優先順位付け

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
働きやすい職場環境への 取り組み	業務改善の取 り組み	①実態把握と整理（計画担当件数、夜間電話当番回数）
	働き方改革へ の対応	①各職員が有給休暇付与日数の 50%以上取得（最低 5 日以上） ②各職員の超過勤務時間 5 時間以内（月）

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸友生園
施設長 井上 待子

神戸友生園の基本方針

1. 利用者の障害状況に応じたプログラムの提供に努めます。
2. 利用者のニーズに応えられるよう高い専門性を持って支援を行います。
3. 安心・安全に地域生活が営めるよう支援を行います。

2021 年度の事業計画について

昨年度は経営的に非常に厳しい年となってしまいました。新型コロナウイルスを警戒しながら感染症対策も昨年同様取り組んでいきます。安定した収入が得られるように開所日数の増加や利用率の向上を目指し、新規利用者の確保に向けて、相談事業所からの見学や実習を、コロナ禍での受け入れ体制を整えられるよう関係機関との調整を行います。支援学校の進路担当教諭との情報共有の場をもち、2022 年度に向けた新卒者の受け入れ準備も同時に行います。また、利用者への支援をしっかりと行うことで利用日数の増加を目標としている方への働きかけや、家庭環境が不安定で在宅期間が長引いている利用者への支援も関係機関と連携しながら、利用日数を増やすことが出来るように支援していきます。

利用者の満足度を向上させるために、作業量の確保が必須です。「神戸聖隷オアシス」内での接客や厨房内作業など新しい取り組みを開始します。また、神戸友生園の利用者だけでなく就労を目指す障害のある方の実習先としても「神戸聖隷オアシス」Tunagari を活用できるように準備いたします。

職員育成として Web 研修の為にパソコンや環境整備を行います。本部の部屋を多目的室として、会議や共同作業の場となるように整えていきます。外部研修も必要に応じて参加させ、職員の資質向上に努めます。施設内内部研修も継続して行い、今施設内にある小さな課題や気付きについてタイムリーに学べるように、職員会議や毎日の朝礼、終礼の報告事項を参考に研修内容を検討します。

特に今年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響が懸念され経営が厳しい年ではありますが、利用者、ご家族の安全を確保しながらも経営状況を安定させることが出来るよう、職員全員で取り組んでまいります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	就労継続支援 B 型	40 名	身体障害者 知的障害者 精神障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

地域のネットワーク体制を構築出来るスキルを身に付けた職員集団を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
理念の浸透と理念に沿った支援の実践	理念の本質の理解と共有	①内部研修にて理念の理解（理事長による研修会の実施） ②創設時の思いに触れる勉強会の実施（Web研修を企画）
	理念の実践	①研修にて、理念に沿った支援の在り方を学ぶ（バイステックの7原則と基本理念を考える研修の実施 2回/年）
人権擁護の徹底	虐待・不適切ケアの防止	①虐待チェックリストの実施（2回/年） ②虐待防止判定基準表の事例検討会実施（1回/年） ③接遇ハンドブックを活用した研修の実施（6回/年） ④虐待防止の内部研修を実施（2回/年）
	日常の支援における『気づき』の共有	①職員会議で『気づきツール』の情報共有と事例検討（1回/月）

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
職員のスキル向上	研修会への参加	①職員一人ひとりが研修会に参加（1回以上/年） ②臨時職員に向けた内部研修の実施（3回/年）
	実習生への指導にて資質の向上	①コロナ禍において、実習受け入れ準備・対策を検討し学生に福祉体験や学び、気づきの場を提供 ②正規職員が実習指導担当の役割を担う（1回以上/年）
マニュアル整備の標準化を目指す	各種マニュアルの整備とブラッシュアップ	①業務マニュアルのブラッシュアップ ②支援標準化マニュアルの更新 ③作業マニュアルの整備とブラッシュアップ

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
利用者が達成感を持てる作業の提供	利用者個々の達成感・充実感の把握と共有	①利用者個々が望む『働き方』のアセスメントと作業提供 ②納得性のある作業評価と工賃配分の新体系導入
	利用者ニーズに沿った多種多様な作業の確保	①年間2種目の新規作業の確保 ②神戸聖隷オアシス内「TUNAGARI～あつまり処～」における活動を開始
	自主生産品の充実と事業拡大	①オリジナル商品の注文書付きチラシ作成 ②ギフト商品の販売（6回/年） ③アドアド市の定期開催（20回/年） ④すまいんど部会の活動参加
利用者の安心・安全につながる支援の提供	ケース会議の実施	①利用者の生活歴の確認と理解を深めるために会議を実施（1回/月） ②作業能力評価会議（評定会議）の実施（2回/年）
	サービスの質の向上	①サービス提供票の更新（1回/月） ②利用者満足度調査の実施（1回/年） ③新規グループホームの検討の為、GH 南落合・アリエッタ北須磨との情報共有の実施（1回/月）
	防災・防犯対策	①防災訓練実施（2回以上/年） ②防犯訓練実施（2回以上/年） ③食料品などの備蓄購入のため、消費期限や数量の確認（1回/月）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
安定した収入の確保	定員を守った中での利用者数の向上	①実習受け入れに関する「感染予防対策マニュアル」を作成し、学校側と打ち合わせを実施 ②感染状況を注視しながら開所日を検討 ③新規利用者獲得に向けた活動 ④職員会議で利用者の出勤状況等を確認
	作業収益の向上	①作業担当による取引先との良好な関係の構築の為、職員会議で現状の共有（1回/月）
	ジョブコーチ事業の継続	①OJTによるジョブコーチの育成の為、関係機関と連携し育成の場の創出

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
経費削減 安定的経営の模索と	仕事の効率化への取り組み	①職員会議にて効率化への検討（1回/2か月）と取り組み ②定時退勤と早期退勤を推進し、月毎に検証
	経費削減の取組	①経費削減やコスト意識を高める為、職員会議にて経費、コストの把握（1回/月）と削減に向けた取組み

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
携を 図る 地域の各種学校との連携	地域の支援学校に対する連携強化	①支援学校の進路担当者との相談体制の構築に向けた協議の場を持つ（4回/年） ②関係機関との協力体制の構築に向けた協議の場を持つ（2回/年）
	地域の医療系専門学校との連携	①作業療法士1・2年生の実習（1人2回/年）の実習内容の再調整
関係の構築 団体等との良好な 地元自治会や各種	自治会及び各種団体主催イベントへの参加	①感染状況に応じたイベントへの参加 ②神戸聖隷オアシス1Fフロアにて、感染症対策を行い地域住民との交流の機会を企画・実施

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
構築 イフ バラ ンス の ワ ー ク ラ	有給休暇取得の推進	①有休取得率の向上（目標100%）
	超過勤務労働削減の取組	①職員ひとり一人の業務量の把握と改善に向けた実行策の推進
整備 マ ニ ュ ア ル の	各種マニュアルの作成・整備	①法人基本マニュアルに沿った18項目のマニュアルの作成・整備実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホーム南落合
管理者 井上 待子

グループホーム南落合の基本方針

1. 利用者一人一人の基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者の働きたい思いを大切に「その人らしい暮らし」を支援します。
3. 継続的に就労が出来るように適切な声掛けを行います。
4. 安心・安全な生活が送れるよう環境づくりを行います。
5. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるように努めます。

2021 年度の事業計画について

事業開始から 1 年半が過ぎました。この間に利用者 1 名が退所になり、新たに 1 名の利用者が一緒にホームで生活を始めています。また、1 名の利用者家族が緊急入院する事があり、ご兄弟からは「グループホームに入所していて本当に良かった。自宅で過ごしていたら大変な事になった。」とお話がありました。高齢化している家族にとっては、ご兄弟を含めて極めて重要な役割を担っていることを改めて感じました。

地域交流という点では自治会の役員を担い、グループホームが団地内の一員として認められつつあります。地域住民の方との交流は、頻繁ではありませんが消防訓練や、団地清掃などに参加することで少しずつ交流を深めています。今後も引き続き、地域の方との交流を深めながら、利用者が安心して生活できる場となるように積極的に関わりを持ちたいと思います。

世話人の体制はいまだ不十分で、もうしばらく神戸友生園でのバックアップが必要な状態です。今後も継続して人員確保に努めて参ります。

年度末に神戸市より南落合の住宅が神戸市の「第 3 次市営住宅マネジメント計画 (案)」になっており、2021 年から 10 年間で廃止もしくは改修、建替えとなると説明がありました。現状では、どのようになるのか調査したうえで事業手法が決まっていく為、時期や手法は分かりませんが、神戸市もグループホームの現状や自治会との関係性なども十分考慮していただく旨を確認しましたので、今後に向けた話し合いを行って行きます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業 (第 2 種社会福祉事業)	共同生活援助	5 名	身体・知的障害者

2. 2021年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施 ②虐待防止チェックリストの実施（2回/年）
	健康管理	①利用者の健康状態を把握し、必要に応じて医療機関と連携を図れるよう協力医療機関に依頼
	余暇の充実	①一人ひとりにあった余暇を検討
	マニュアル整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ
	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加
	防災対策	①避難訓練の実施（2回/年）
財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と、利用率85%維持
	バックアップ機能の体制整備	①神戸友生園での日中及び夜間緊急時支援体制を整備 ②法人内グループホーム全体のバックアップ体制整備
人材育成	基本理念の浸透	①世話人への内部研修の実施 ②法人研修への積極的な参加
	専門性の向上	①世話人を含む職員の外部研修への参加

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸光生園
施設長 吉本 ひろみ

神戸光生園の基本方針

1. 「隣人を自分のように愛すること」の具現化を目標に、法人の基本理念に掲げられた行動規範「個別支援の推進」「利用者の人権擁護」「職員の専門性の醸成」「地域社会との連携」を中心テーマとして支援に努めます。
2. 「利用者の笑顔」をひとつの評価の基準にし、より良いサービスの提供を目指します。
3. 利用者ひとり一人の可能性、能力、個性が発揮できる支援を行い、そのための職員の専門性の向上を図ります。

2021 年度の事業計画について

第 4 期中期計画 1 年目は新型コロナウイルス対策に終始した年でした。2 年目は出来なかった計画を繰り延べして実施するものと、少しずつでも取り組めた計画について第 2 段階へ進むものとして整理しました。理念については昨年度に引き続き牧師による理念理解の講座を予定しており、より理解を深める取組を行います。可能であれば但馬地区の地域交流の場への参加を実施したいと考えています。また、販売機会が減ってしまった自主生産品等については、「ひかりマルシェ」(ミニバザーを名称変更)の活性化として予定していた新門扉設置工事費用に共同募金受配申請を行いました。それに伴い採択されれば一部を自己資金で、不可であれば全額自己資金で実施するものとして 2021 年度事業に変更しました。これまでよりも地域の方の参加が増え、他事業所の参加も促進し交流の場となること、生産品の売り上げアップの両方を目指します。また、生産品のネット販売もようやく登録が出来、製品が完成しましたので今年度は軌道に乗せて販路を拡げます。

職員のワークライフバランスにも力を入れます。休憩室を設定し、休憩時間は一旦気持ちをリセット出来る環境を整え、より良い支援に備えられるようにします。また十分な休憩時間の確保も課題となっており、今年度は早期に休憩シフト案を作成し実施します。

職員育成面ではコロナ禍で外部研修の機会が少ない中、内部研修の充実を図るため内部研修用フォーマットを利用し誰でも内部伝達研修に取り組める仕組みづくりを行います。2021 年度前半はまだまだ感染症対策と関係者感染時の対応マニュアルの整備が必要となりますので、随時改訂しつつ緊急時に備えます。災害対応としては前年度職員のみで「避難所開設訓練」に取り組みましたので、今年度は地域の方と共に取り組む形で継続します。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	生活介護	54 名	知的障害者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	就労継続支援 B 型	60 名	知的障害者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	就労移行	6 名	知的障害者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	就労定着支援	—	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

目指そう！利用者支援の質の向上とワークライフバランスの両立

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
理念の理解を深める	理事による講演	①有川理事による講演 (1回/年)
	キリスト教精神の理解	①竹内牧師による講演 (3回/年)
歴史を学ぶ	神戸聖隷の合同施設見学の実施	①上半期に参加ができる但馬のイベントを検討して神戸地区の参加事業所を決定 ②下半期に但馬のイベント参加と事業所見学

(2) 人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
魅力ある実習の提供	職場全体で実習生を受け入れる	①職員向けの実習生の進捗状況に合わせた指導内容等をまとめた実習指導ツール（実習予定表）の運用
研修の充実と専門性の向上	内部研修の充実	①外部研修を基に内部研修実施 (3回/年) ②内部研修書式の完成と活用 (9月までに完成)
	職員の個性を生かせる研修への参加	①研修リスト作成 ②職員アンケートによる希望する研修への参加 (全職員対象・1回/年)

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
生活環境の改善	快適な生活スタイルの維持	①館内の空調維持管理マニュアルの作成と維持管理の実施 ②手洗い、消毒備品の管理マニュアル作成と維持管理の実施
工賃の安定	オリジナルブランドの確立	①6 センスプロジェクトとの差別化 ②オリジナル製品の開発
	在庫管理システムの構築	①全製品のバーコード化 ②在庫管理システムの運用
	商品の販路拡大	①ネット販売の実施 ②味噌の販路拡大

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
魅力ある職場づくり	職員の休憩スペースの設置	①会議室の一部を職員休憩場所として転用 (6 月までに実施)
	職員の休憩時間の確保	①6 月までに試案作成 (45 分+15 分) ②7 月以降に施行して下半期より実施
業務の効率化	支援記録ソフトの活用と業務効率化	①事故報告書とヒヤリハット報告書の書式の見直しと電子印による回覧方式の導入 (9 月) ②業務日誌のペーパーレス化 (5 月)
	パソコンのスキルアップ	①業務効率化を図るためにパソコンのスキルアップ講習会を実施 (応用編、エクセル・ワード・パワポ 2 回/年)
経営の安定	コスト意識の向上	①光熱水費を対前年度比で 3%削減するためにキャンペーン実施 (年度内・3%削減)
	経費削減の取り組み	①ペーパーレス化による経費削減の実施 (対前年度比 5%削減)

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
深める 地域との交流を	ミニバザーを通して地域交流を目指す	①門扉の工事 ②ひかりマルシェの魅力向上（売り場を整える・参加作業所増） ③地域交流を目指すためにイベント実施（地域認知度アップ） ④年に3回のアンケートを実施
実践 防災を通じた地域貢献の	防災イベントの継続	①防災イベントの実施（11月）
	福祉避難所の機能充実	①防災物品置き場の整理 ②福祉避難所開設訓練の実施（11月） ③不足物品の購入

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
環境の構築 安全・安心な	防災対策の充実を図る	①警察の協力による防犯訓練の実施（1回/年） ②不審者対策の実施
ランスの実践 ワークライフバ	残業時間の減少への取り組み	①半日土曜開所を活用した効率的な業務の仕方の継続推進 ②支援記録ソフトを活用した業務効率化の推進

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームみなみたもん
管理者 吉本ひろみ

グループホームみなみたもんの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」が実現できるように支援します。
3. 安心して安全な生活が送れる環境づくりを行います。
4. 地域の一員としての役割を担えることを目指し、「障害理解への啓発」に努めます。

2021 年度の事業計画について

開設 8 年目を迎え、開所時からご利用の方の身体的な高齢化問題も少しずつ顕著になっていきます。まだまだ日常生活に支障があるほどではないにしろ、以前はそれほど問題がなかったことについて配慮が必要になっていきます。また障害特性から他のご利用者への拘りが徐々にエスカレートし、世話人が対応に苦慮する場面も増えています。個々のケースについては世話人会議で出来る限り事例を共有し対応方法を統一するように努めていますが、日々一緒に勤務することがない世話人同士のコミュニケーションの困難さも感じます。運営面の課題もありますが、リーダーとなるべき専門性高い職員の育成もしくは配置が今後の課題です。

これまでどうしても外部研修に参加しにくい（夜勤シフトの関係）世話人ですが、オンライン研修の機会も増え比較的短時間で受講できることから、今年度は支援に関する研修に参加し、専門性を高めることを目標とします。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	共同生活援助	5 名	知的障害者

2. 2021年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	利用者が安心できる環境の提供	① 入居者の後見人・保佐人との良好な関係を維持し、本人の意思と権利を尊重した支援を実施 ② 利用者の居室や共用部分においてプライバシーに配慮した住みやすい住環境を提供 ③ 個々のマニュアルを基に、統一した支援の実施
	健康管理	① 糖尿病・高血圧など持病の状態を把握し、主治医と連携して増悪の防止
	地域との連携	① 地域の一員として自治会行事へ積極的な参加 ② 自治会へ役員として参加
	防災対策	① 消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練の実施（年2回） ② 災害時を想定した防災訓練の実施（年1回）
財務	利用率の安定維持	① 週末の余暇支援や体調不良時の日中支援など入居者が安心して生活できる環境の維持 ② 定期的な帰省を維持し、経営の安定と生活のリズムを確立
	堅実なバックアップ施設	① 緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 ② 安定的な支援体制の確立（支援員の育成）
	積立金の計上	① 将来に備え可能な限り修繕積立金を計上
人材育成	キリスト教理念の浸透	① 基本理念におけるキリスト教精神の理解 ② 神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	① 世話人・生活支援員の研修実施
	虐待防止・人権擁護の取組み	① 全員参加の内部研修を1回実施（バックアップ施設にて実施） ② 関係機関等実施の外部研修に参加 ③ 月1回定例の世話人会議を実施、支援方法や利用者対応についての相談を実施 ④ 年2回の虐待防止セルフチェックの実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームふくだ
管理者 吉本ひろみ

グループホームふくだの基本方針

1. 利用者が自分の意思で暮らすことができ、基本的人権が守られる支援を行います
2. 利用者がお互いを尊重し、助け合って生活できるような毎日を目指します
3. 1人ひとりの個性を認め、プライバシーを重視した生活を提供します
4. 地域の中で、社会の一員として「ふつうの暮らしを楽しむ」事を支える支援をします

2021 年度の事業計画について

開設 5 年目を迎えるグループホームふくだでは、利用者の皆さんの生活はすっかりリズムが出来ており利用率も安定し運営面では問題ありません。職員間のコミュニケーションをどのように円滑にするかが大きな課題となっています。サービス管理責任者がほぼ常駐しているとはいえ、細かな支援方法の捉え方などが大きな問題となることがあります。多くの支援者がいる事で個々の責任感が希薄になる傾向があり、支援員と管理者のコミュニケーションの機会をもう少し作る必要を感じています。また、利用者のご家族の高齢化が進んでおり、成年後見制度をまだご利用になっていない方に、出来る限りご利用を勧めていきます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	共同生活援助	10 名	知的障害者

2. 2021年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	利用者が安心できる環境の提供	① 成年後見制度の活用を奨励 ② 家族や後見人との良好な関係の維持 ③ 利用者にとって居心地の良い住空間の提供とプライバシーの尊重
	マニュアルの整備	① 業務マニュアルと利用者の個別支援マニュアルの定期的な更新。 ② 個々のマニュアルを基に統一した支援の実施
	地域との連携	① 地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃等地域の活動に参加 ② 地域行事（夏祭り）などへの積極的な参加
	防災対策	① 年2回の避難訓練の実施 ② 年1回の防災訓練の実施
財務	利用率の安定維持	① 週7日のサービス提供と、利用率90%維持
	バックアップ機能の体制整備	① コーディネーター（サービス管理責任者）配置によるバックアップセンター機能の検討
	積立金の計上	① 将来に備え可能な限りの積立金の計上
人材育成	基本理念の浸透	① キリスト教精神に基づく基本理念の理解 ② 神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	① 世話人・生活支援員に専門研修の実施（職員会議等の活用）
	虐待防止・人権擁護の取組み	① 全員参加の内部研修を1回実施（バックアップ施設による） ② 支援員・世話人の専門性向上の為の研修実施 ③ サービス管理責任者、管理者による月1回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてのサポート ④ 年2回の虐待防止セルフチェックの実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸明生園
施設長 山本 隆志

神戸明生園の基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 「あたりまえの暮らし」と「その人らしい暮らし」の実現を目指します。

2021 年度の事業計画について

神戸明生園では、ご利用者、ご家族、職員の安全・安心のために、今年度も計画を進めていきます。

高齢・重度化が進む施設入居者が、少しでも安心して日々の生活を送ることができるように、寮再編成の案作成を進めます。凶らずも、コロナ禍で取り組んだユニットケアの実施結果を踏まえつつ、限られたスペースをご利用者の状況に合わせて適切に活用を行えるように、職員の知恵を出し合っていきます。

私たちの想像よりも長引いているコロナ禍において、不安を抱えながら日常業務にあたって下さる職員への感謝と、ご利用者支援の継続の大切さを確認するために、法人基本理念に関する研修を継続して実施していきます。

一般的な業務に関わる研修については、オンライン研修システムの活用と、研修動画を元にした小グループでの研修を行います。

感染症対策を行いつつ、各項目内容を適切に実施していきます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	生活介護	80名	知的障害者
障害者支援施設事業（第1種社会福祉事業）	施設入所支援	70名	知的障害者
障害福祉サービス事業（第1種社会福祉事業）	短期入所	10名	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

ご利用者、ご家族、職員が安心して過ごせる環境（人・物・経営）の実現を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
と継承 基本理念の実践	基本理念研修を開催し、日常支援を理念の視点で振り返りを行う	① 基本理念研修の開催（年2回）
		② 平和を求める祈りの唱和（コロナ禍のため、黙読）（週1回）
を学ぶ 神戸聖隷の歴史	歴史資料館に関する研修の実施	① 歴史資料館の見学に相当する内容の研修を実施（年1回） 法人DVDの視聴、神戸明生園の建設の経緯を学ぶ

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
の更新 マニュアル	施設内の各種マニュアルの更新	① 各種マニュアルの作成・更新
の更新 施設内研修体系	研修内容の更新と研修の実施	① 施設内研修の実施（年7回） 小グループ研修の実施 感染症研修の実施 オンライン研修の継続
育成 用継続・職員の雇	エルダー制の確立	① エルダー制に使用する習熟度チェック表の活用
人材確保への動き	各種学校より実習生の積極的な受け入れの実施	① 実習生の受け入れ基準の提示を行い、基準に基づき実地実習を提供する
	職員寮の検討	① 借上げ実施（5室） 下半期開設を計画

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
高齢重度化への対応	定員 60 名への変更	① 定員 60 名への変更（下半期当初）
	生活スペースの再整理	① 委員会開催（年 6 回） 寮再編成へ向け案の作成
標準化された支援の提供	支援提供の基準作成	① 提供している支援内容の整理（基準整理）
	マニュアル内容の更新	① 各種マニュアル作成・更新（人材確保育成と同一）
虐待防止・接遇改善	チェックリストの継続的实施	① 継続実施（3 か月毎）
	接遇研修の実施	① 研修開催（年 2 回） オンラインを活用し実施
	スローガンポスターの掲示と更新	① スローガン掲示と更新（3 か月毎）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
計画的な積立金実施	積立金の継続実施	① 積立金の計上
	短期入所の提供継続	① 短期入所の提供を継続（50%） 感染症への配慮の元実施
建物設備の維持管理	計画的修繕の実施	① 新館ボイラー更新・キュービクル内部品交換、高圧ケーブル交換の実施（再見積もりを行い、内容精査）

(5) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
の事業継続計画の確立	災害時 BCP の作成	① 感染症蔓延時の BCP 作成 (9月)
災害時対応力の強化	備蓄品の強化	① 不足備蓄品の購入 (10月) ポータブル発電機のオーバーホール
	福祉避難所運営マニュアル策定	① 感染症蔓延下でのマニュアル案に変更 (9月)
保ワークライフバランスの確保	業務省力化の実施	① IOT の導入完了 (8月)
	パートタイムワーカーの充足	① 食事支援時のパートタイムワーカーの充実

(6) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
との連携強化	医療福祉部会への参加	① 参加情報共有 (年4回) 医療福祉部会内の研修参加 しあわせの村祭り将来検討委員会への職員派遣含む

2021年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 ケアホームきたすま
 管理者 山本 隆志

ケアホームの基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 利用者が地域の主体であることをともに感じる事ができる支援を目指します。

2021年度の事業計画について

少人数での静かな地域生活を行っている「きたすま」では、大きな変化なく生活が継続できるように支援を続けています。感染症への配慮を行いつつではありますが、いつも通りの生活を行えるように、安定した支援の提供を目指しています。

高齢になった入居者の生活が可能な限り継続できるように一部の設備改修を続けていきます。

外出などの活動が制限されている状況のため、取り組める内容に限りがありますがバックアップ施設との連携で活動提供を行っていきます。

昨年度整備された通信環境を活用して、オンラインでの研修実施、研修動画の視聴を進めていき、新たな情報等の習得にも務めていきます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	共同生活介護	5名	知的障害者

2. 2021年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区 分	課 題	具 体 策
Q O L	高齢・重度化への対応	① バックアップ施設との連絡を密に実施 ② 業務内容を整理 ③ ホーム内茶話会の実施(年1回)
	利用者の安全の確保	① 火災訓練の継続 ② 体調不良時のバックアップ施設活用
	地域生活の定着	① 近隣との良好な関係維持のため、地域清掃への継続的な参加を行う ② 移動支援等外部サービス利用の継続
財 務	予算に沿った収入の確保	① 利用率の安定
	設備改修・永続的運営に向けて	① 積立金の継続的な実施

人材育成	専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① オンライン研修の提供 ② 虐待防止の徹底（防止研修及び3か月に1回のチェックリストの実施継続） ③ 個別支援計画内容の充実 ④ バックアップ体制の強化 神戸明生園及び、聖隷総合相談センターとの連携強化を継続
------	--------	--

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸市立ワークセンターひょうご
しごとサポート中部
神戸障害者就業・生活支援センター
障害者雇用就業・定着拡大推進事業
所長 森崎 康文

センターの基本方針

1. 法人の基本理念のもとに、標記の4事業を一体的・有機的に運営する。
2. 障害者が「1人でも多く、1日でも長く」一般就労できるよう支援する。
3. 個々の訓練生・相談者に適した就職支援・定着支援を継続的に進める。
4. 関係機関との連携の強化に努め、障害者の一般就労の伸展を目指す。
5. 神戸地域における障害者就労支援の中核施設として、その専門性の向上を図る。

2021 年度の事業計画について

第4期中期計画の2年目となる今年度も、新型コロナウイルス対策を講じながら、引き続き就労支援を通して利用者の地域生活を支えるとともに職員が就労支援のエキスパートとして働ける職場づくりに努めていきます。

まず、共通の重点実施項目中で主なものとして人材育成と地域貢献の視点について述べます。人材育成の視点では、内部研修の充実とオンラインを含めた法人内外の研修を活用することにより、職員の育成と専門性の向上を目指して行きます。また、学んできた内容を他の職員に伝達する機会を設けるなど組織全体としてのスキルアップも引き続き目指します。

次に、地域貢献の視点では、第4期計画の1年目は新型コロナの影響により継続実施できなかった地域交流の再開を目指します。まずは、第3期計画で関係構築ができた近隣小学校へのアプローチを皮切りに、近隣の他の小中高からの施設見学を積極的に受け入れ、地域に暮らす若い世代への「福祉学習」に貢献します。

続いて各事業ですが、ワークセンターひょうごについては、訓練内容の充実を図ります。第4期計画1年目では、新型コロナの影響により、予定どおり施設見学が実施できませんでした。2年目は、残りの施設見学を実施した上で、それら施設の取り組みを参考に、現在の作業訓練を見直します。具体的には、ワークセンターひょうごの就職先トップ3の業種（清掃、物流、調理補助）に関する基本スキルを身につける訓練を取り入れます。作業訓練以外にも、「ビジネス講座」と称し、身だしなみ、あいさつ、「報連相」などを座学を通して学ぶ機会を設け、社会人に必要な基礎を学ぶ機会を提供します。また、訓練生が働くイメージを持てるよう、体験実習の機会の充実に努めます。就職先トップ3である清掃業、物流業、調理補助業務を中心に実習先を新規開拓し、とりわけ物流と調理補助の実習先が少ない状況を改善します。

次に、しごとサポート中部をはじめとする就労相談部門については、第4期計画2年目においても、委託事業という性格を踏まえながら誠実に事業を遂行します。また、引き続き、月1回第3土曜日の開所を継続しながら、利用者にとって利用しやすい身近な相談機関を目指すとともに、社会的にも関心が高まっている生活困窮者への支援などについて関係機関と連携し、引き続き取り組んで行きます。

1. 事業概要

種 別	事 業 名	定 員	主たる対象者
障害福祉サービス事業 (第2種社会福祉事業)	就労移行支援事業 －神戸市立ワークセンターひょうご－	30名	知的障害
公益事業(市委託)	相談支援事業 －しごとサポート中部－	－	全障害
公益事業(国委託)	相談支援事業 (雇用安定) －神戸障害者就業・生活支援センター－	－	全障害
地域生活支援事業 (県委託)	相談支援事業 (生活支援) －神戸障害者就業・生活支援センター－		
公益事業(県補助事業)	職場開拓事業 －障害者雇用就業・定着拡大推進事業－	－	全障害

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
の法人理念の共有を通じた支援力の向上	【共通】 法人内部研修への積極的参加	① 法人内研修への参加(各職位別研修、理念研修など)
	【共通】 聖隷ハンドブックの活用	① ハンドブックを活用した職員によるお話
	【共通】 法人理念の共有	① 全体職員会議での理念唱和 ② ハンドブック活用

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
定着職員の育成と	【共通】 内部研修、外部研修の効果的な活用	① 外部研修参加 ② 内部研修実施 ③ 就業支援アドバイザーの活用 ④ 虐待防止事例検討会の実施(年2回)

(3) QOL の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
安定した就労及び地域生活の支援	【ワーク】 訓練内容の充実	① 他施設見学 ② 訓練内容検討 ③ 体験実習先開拓
	【共通】 職場定着支援の 継続	① 在職者交流会の実施（年 4 回） ② ドリーム、ほっとロビーの実施 ③ 就労定着支援事業の実施(定着交流会の実施)
	【就労】 利用者・相談者 の利便性向上	① 土曜開所継続（月 1 回開所） ② 土曜開所回数の見直し
	【就労】 就労相談支援の 充実	① 生活困窮者等支援及び地域関係機関支援 ② 現況調査（葉月作戦）の継続（年 1 回）
	【共通】 支援マニュアル の整備による円 滑な業務遂行	① マニュアル作成、運用と見直し
	【共通】 ワンストップサ ービス機能の拡 充	① 生活、発達、就労の一体的な相談支援の現状把握 ② 具体的なケースを通じた支援のあり方の考察
権利擁護と支援の質の向上	【共通】 虐待防止セルフ チェックリスト の実施	① チェックリストの実施
	【共通】 顧客満足度調査 の実施	① 調査実施と集計
	【共通】 虐待防止研修	① 虐待防止研修の実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
実なる事業遂行 する ための 誠 指 定 管 理 者 と し て 継 続 更 新	【共通】 事業内容の充実 と誠実な遂行	① 関係機関との連携会議の開催 ② 神戸市トライアル実習、訓練雇用の実施
安定的な経営の持続	【ワーク】 積極的な営業活動	① 見学受入 ② 学校等訪問 ③ HP更新と内容の充実 ④ 途中入所者の確保（3名/年）
	【ワーク】 利用者の出勤率 と職場定着率の 向上	① 出勤率（在籍数ベース9割以上） ② 定着率（42月以上78月未満7割5分以上）

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
役割を果たす 地域福祉の拠点施設としての	【共通】 地域交流の継続	① 地域交流の継続 ② 地域清掃活動（9月、12月）
	【就労】 地域内の関係機 関の支援力向上	① 中部ネットワーク会議（年3回） ② 6者会の開催（年6回） ③ 就業支援基礎研修（年1回）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
すい職 場 づ く り ス を 重 視 し た 働 き や ワ ー ク ラ イ フ バ ラ ン	【共通】 ワークライフバ ランスを意識し た働き方の励行	① 超過勤務、有給休暇取得の状況確認 ② 職員面談の実施（年4回）

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームアリエッタ北須磨
管理者 森崎 康文

グループホームアリエッタ北須磨の基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権と主体性を尊重した支援を行います。
2. 利用者が元気に職場等に出かけ、安心して帰って来ることができる“心の拠りどころ”となり、「一日でも長く」働き続けられるように支援します。
3. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるよう努めます。

2021 年度の事業計画について

2020 年 1 月に就労障害者を対象としたワンルーム型グループホームとして開設し、2 年目を迎えます。今年度も、利用者のプライベートな時間を大切にしながら、必要に応じて職場や生活面での困りごとに対応することで、障害のある一人ひとりの職業生活をサポートしていきます。

まず、コロナ禍においては、引き続き食事の個室対応などの感染対策を講じながら、利用者の健康の確保に努めます。また、昨年度コロナ対応により取り組みが不十分であった「1 週間のスケジュールの確立と障害特性に配慮したスケジュール提示」を行い、グループホームでの生活をよりいっそう安定したものになるように努めます。また、昨年度と同様、利用者の年齢や潜在能力を踏まえながら、生活力（洗濯、掃除、食器洗いなど）の向上に向けた取り組みを継続します。将来的には、1 人でも多くの方が一人暮らしなど次のステップにつなげていきたいと思えます。

また、スタッフミーティングの機会を設け、職員間の意思疎通をより円滑に図るとともに、内部研修等の実施により、統一した質の高い支援の提供も目指します。

最後に、コロナ禍ではありますが、友が丘及び多井畑地区の地域行事に可能な限り参加し、アリエッタ北須磨が地域の一員として認知してもらえるように努めます。

1. 事業概要

種別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第 2 種社会福祉事業）	共同生活援助	10 名	知的障害

2. 第 4 期中期計画と推進策

第 4 期中期計画のビジョン

就労支援（と生活支援）を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
法人理念の共有を通じた支援力の向上	法人内部研修への積極的参加	① 法人内研修への参加（各職位別研修、理念研修など）
	聖隷ハンドブックの活用	① ハンドブックを活用した職員によるお話
	法人理念の共有	① 職員会議での理念唱和 ② ハンドブック活用

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
職員の育成と定着	研修の効果的な活用	① 内部研修への参加 ② 外部研修への参加
	権利擁護の推進	① 虐待防止研修等への参加 ② 虐待チェックリスト（セルフチェック）の実施

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
利用者の生活の安定	マニュアルの整備	① 基本的な生活支援のマニュアル ② 個別のスケジュール作成
	健康管理	① 医療機関との連携による適切な健康管理
	防災対策	① 消防設備点検（年2回） ② 避難訓練等の実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
安定的な経営の持続	収支の改善	① 稼働率の把握 ② 宿泊回数が少ない利用者への利用勧奨
	堅実なバックアップ体制構築	① 緊急時等のワークセンターひょうごによる速やかな対応とフォロー

(5) 地域貢献の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
をつなぐ 地域との つながり	地域との連携	① 地域でのイベント等への参加・協力

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
職場づくり を重視した働きやすい ワークライフバランス	ワークライフバランスを意識した働き方の励行	① 超過勤務、有給休暇取得の状況確認 ② 職員面談の実施（年2回以上）

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
ひょうご障害者相談支援センター
神戸市障害者基幹相談支援センター
神戸市発達障害者中部相談窓口
所長 森崎 康文

センターの基本方針

【ひょうご障害者相談支援センター】

1. 障害のある方（以下、「相談者」という）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が住み慣れた場所で暮らせるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を行います。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。
3. 障害の有無に関わらず、住み慣れた場所で安心して暮らすことができるよう、関係機関との協働のもと、区自立支援協議会事務局として協議会の活発な運営を担います。
4. 兵庫区障害者地域生活支援拠点として「見守り支援事業」の委託を受け、障害者の見守りを各関係機関と連携しながら行い、相談支援機能と地域社会資源の連携体制の構築に取り組みます。

【神戸市障害者基幹相談支援センター】

1. 市内の特定相談支援事業者の統括および、区自立支援協議会と市自立支援協議会・神戸市施策推進協議会の連携に向けた後方支援等を行うことにより、神戸市の相談支援体制の強化に貢献します。
2. 兵庫県下の各圏域との協働を通して、人材育成を含めた神戸市の相談支援体制の拡充と新カリキュラムに基づいた初任者研修、現任者研修、新たに主任相談支援専門員研修を実施します。

【神戸市発達障害者中部相談窓口】

1. 発達障害のある方（以下、「相談者」という。）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が自立した地域生活と社会参加ができるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を提供します。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。

2021年度の事業計画について

今年度から5年間神戸市の委託契約を更新し、引き続き指定管理業務の継続を行い相談者が安心して地域で暮らせるよう支援してまいります。また、地域の方や障害当事者の方にセンターの役割が明確になるよう「ひょうご障害者相談支援センター」と名称を変更し、引き続き各区に1か所設置された地域生活支援拠点として相談支援機能と緊急時の短期入所等の活用、地域社会資源の連携体制の構築等にも、職員一丸となって取り組んでいきます。

障害者相談支援センター、基幹相談支援センター、発達障害者中部相談窓口の共通の方針ですが、引き続きワンストップサービスの強化・定着を掲げています。“生活から就労、発達に至るまで”の相談支援を「同一法人が一体的に」提供することが、利用者にとっての安心感と利便性向上につながり、サービスの質の向上につながります。災害時の要援護者支援を担う等具体的な業務についても関係機関と連携しながら確立を目指します。

最初に障害者相談支援センターは、今年度も「ほっとかへんネット兵庫」への参画と地域におけるニーズ把握を掲げています。また、地域ニーズの把握については、区自立支援協議会の部会活動を通し事務局としての役割を担います。調査業務は区との連携を密に行いながら、一般相談支援、計画相談支援も引き続き行っていきます。

次に、基幹相談支援センターでは、特定相談支援事業者連絡会の充実を掲げています。市内の特定相談支援事業所の質の向上のため「特定相談支援事業者連絡会及び研修会」を開催しスキルアップと事業所間の連携強化を図ります。今年度は新たに初任者研修修了者を対象にファーストレベル研修を企画し、相談支援専門員のフォローアップにも力を入れていきます。また、初任者研修の企画構成員のリーダーとしてメンバーを牽引し、引き続き、兵庫県下の圏域コーディネーターとも協力しながら、相談支援体系の確立に貢献します。

最後に、発達障害者中部相談窓口では、昨年度から地域活動支援センターとの連携を図り、定期的にケースの困りごとを共有し、顔の見える関係が築けるよう働きかけています。また「ひきこもり支援室」との連携や、発達障害の理解と啓発活動として「おいでやすカーニバル」で、相談ブースを設け地域の方にも発達障害者への理解を深めていけるよう取り組んでいきます。

1. 事業概要

種別	事業名	定員	主たる対象者
地域生活支援事業 (ひょうご障害者相談支援センター)	委託(神戸市) 相談支援事業	—	全障害
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業) (ひょうご障害者相談支援センター)	指定(特定・一般・障害児)相談 支援事業	—	全障害
地域生活支援事業 (神戸市障害者基幹相談支援センター)	委託(神戸市) 相談支援事業	—	全障害
地域生活支援事業 (神戸市発達障害者中部相談窓口)	委託(神戸市) 相談支援事業	—	発達障害者
地域生活支援事業 (兵庫区障害者地域生活支援拠点)	委託(神戸市) 相談支援事業	—	全障害

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

障害のある方が安心して地域生活を続けていけるような身近な相談機関としての役割を担います。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
法人理念の浸透	神戸聖隷ハンドブックの活用	① 職員会議時にハンドブックを用いたお話しを各職員がする(月/1回)
	法人基本理念の唱和	① 職員会議時に法人基本理念を黙読(2か月/1回)
	法人理念研修への参加	① 法人理念研修への積極的な参加(適時)

(2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
職員の育成と定着	多様な相談に応じることができる職員を育成できるよう育成プログラムの活用	① 機能強化員(副主任)によるスーパーバイズの定例実施(年/3回) ② 定期ヒアリングを事業責任者が実施し、各職員のメンタルヘルスケア、職場定着を目指す(年/2回)
	内部研修、外部研修の効果的な活用	① 内部研修の実施(年/2回) ② 外部研修の参加(適時)
相談支援専門員の質の向上に貢献する	相談支援専門員の育成、資質の向上	① 初任者研修修了者に対し、ファーストレベル研修を実施 ② 市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会を実施(年/3回) ③ 相談支援センターの階層別会議に出席
	初任者研修の企画、運営 圏域コーディネーターとの連携強化	① 初任者研修の企画構成委員のリーダーを担う ② 圏域コーディネーター連絡会に出席し、兵庫県下の相談支援体系の連携と強化

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
相談支援の専門性の向上	ケース検討を定期的実施し職員のスキルアップを目指す	① 区役所での打ち合わせ時にケースの共有と課題整理（月/1回） ② 職員会議時にケース検討（月/1回） ③ 朝礼時のケース共有、報告（毎日）
	発達障害者相談窓口と地域活動支援センターとの連携を図る	① 対象区（兵庫、長田、須磨、中央）の地域活動支援センターを訪問、電話連絡等を通してケース検討（月/3回）
	ワンストップサービス機能の定着	① 全体職員会議で生活、発達、就労の一体的な相談体制の調査、現状把握
向上 権利擁護、相談支援の質の	虐待防止セルフチェックリストの実施	① 年2回（上半期、下半期）に全職員対象に実施
	顧客満足度調査の実施	① 計画相談者、発達相談継続ケースの対象に実施（年/1回）
	虐待防止研修の実施	① 全職員を対象に事業所内又は神戸市主催の研修会に参加（年/1回）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
業務の継続 指定管理及び委託	委託業務の遂行	① 自立支援協議会の事務局としての役割（地域生活） ② 地域生活支援拠点として「見守り支援事業」（地域生活） ③ 地域の相談支援体制の強化（基幹） ④ 相談窓口機能（発達）
談支援の取り組み 調査業務、計画相談、一般相	委託業務の実施	① 区からの依頼の調査業務（勘案、区分、訪問入浴、移動支援）
	事業所加算の取得、維持	① 事業所加算（指定研修終了職員を配置）を取得、初任者研修、現任者研修を受講し加算を維持
	計画相談支援、一般相談支援の取り組み	① 計画相談 26 件、地域定着支援 2 件、必要なケースに適時対応

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域課題の理解を深める	自立支援協議会の運営、地域ニーズの把握	① 事務局として4つの部会（防災、事業所、活性化、相談）、2つのプロジェクト（ハートンマルシェ、のりあい）、総会、運営委員会の開催
	身体知的相談員連絡会の開催	① 地域課題の抽出（年/3回）
公益的な取り組み	ほっとかへん ネット兵庫への参画	① 実務者会への参加、関係機関との連携強化
	「おいでやすカーニバル」で発達障害者の支援に関わる相談ブースの設置	① アウトリーチの一環として地域交流イベントに参加し、発達障害者中部相談窓口のアピールと啓発（年/1回）
	基幹福祉避難所開設訓練の実施	① 災害時要援護者支援として関係各所と訓練を実施（年/1回）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
ワークライフバランスの推進	有給休暇の取得	① 有給休暇の取得推進（前年度比5%増）
	超過勤務の軽減	① 各職員の超過勤務時間を月/10時間以内

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 ひょうごデイサービスセンター
施設長 大嶋 信幸

ひょうごデイサービスセンターの基本方針

1. 利用者に重い障がいがあっても、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『笑顔と真心』で支援する。
2. 利用者の『人権を尊重』し、『喜びと感動』を生み出すサービス提供に努める。
3. 利用者と家族の悩みや課題をしっかりと受け止め、個別支援計画に基づき、『専門性とチームワーク』による『質の高い思いやりのあるサービス』を提供し、『地域社会に貢献』する。
4. 今までの手段や方法にこだわらず、人の持つ『知恵と無限の可能性』を信じ、『絶えず前進』することに努める。

2021 年度の事業計画について

第4期中期計画1年目にあたる前年度は、全職員がいずれかの実行計画に参加をし、各リーダーを中心に一つひとつの計画を確実に推進しました。2年目を迎えるにあたり、計画の振り返りを行い、ビジョンの実現に向けてさらに内容を深め、全職員で取り組みを続けていきます。

長年苦慮していました職員体制については、前年度は支援員3名、理学療法士1名、夜勤専任支援員1名、そしてこの4月から看護師1名を採用することができ、ようやく体制が整ってきました。エルダー制度による丁寧な人材育成、装着型介護ロボットの定着による身体的負担軽減、外部研修やアンケートに基づく内部研修での学びを通して職員の定着を図ります。また、送迎業務の連携や業務分担の見直しを行うことで職員が働きやすい環境を整備し、ワークライフバランスの推進に努めます。

利用者支援においては、要医療ケア利用者の受け入れが責務となります。まずは「入浴」「送迎」「機能訓練」「就労支援」「短期入所」等のベースとなるサービスを確実に提供しながら、事業所全体での協働体制の確立を図り、医務機能の維持・強化に引き続き取り組むことで、利用者の受け入れ体制を整えます。緊急ショートステイについては、夜勤専任の支援員を増員し、相談支援事業所との連携を深めながら地域生活支援拠点としての役割を果たします。

課題であります収支バランスの健全化については、多岐にわたる事業を展開しているひょうごデイサービスセンターの将来を見据えて、今後の方向性を検討していく時期を迎えているように感じます。今まで担ってきた役割を大切にして前向きに検討しながら、ビジョンに掲げました「地域拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活が続けられるように支援します」の実現に向けて職員全員で取り組んで参ります。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	生活介護	25名	身体・知的障害者
介護保険サービス事業(第2種社会福祉事業)	共生型通所介護		要介護高齢者・障害者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	就労継続支援B型	10名	身体・知的障害者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	生活介護・重心	20名	身体・知的障害者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	短期入所	6名	身体・知的障害者
地域生活支援事業	日中一時支援		身体・知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

- ・地域生活支援拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します。
- ・職員が安心して働き続けられる事業所を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021年度計画
理念の理解を深める	理念研修の実施	外部講師を招いた研修	①外部講師を招いての研修実施(年2回)
	職員リードによる法人基本理念、ひょうごデイサービスセンター基本方針の唱和	職員のリードにより週1回法人基本理念、ひょうごデイサービスセンター基本方針唱和	①法人基本理念とひょうごデイサービスセンター基本方針を毎週月曜日の朝礼で唱和
	神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い	神戸聖隷ハンドブック輪読と分かち合い	①輪読と意見交換(月1回)
	接遇ハンドブックを用いた勉強会	接遇ハンドブックを用いた勉強会	①接遇ハンドブック等を用いた勉強会(年4回)

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画
安心して働ける職場環境づくり	職員の知識と技術の向上	外部研修への参加	①外部研修参加（年 12 回）
		内部研修の実施	①内部研修（年 4 回） ②外部研修受講者による報告会
	身体的・精神的負担の軽減	エルダー制度の確立・運用	①継続した運用、見直し ②専門職のエルダーマニュアル作成
		介護福祉機器等の運用・検討	①装着型介護ロボットの計画的運用 ②装着型介護ロボットの運用の見直し
		職員の不安の把握、対応策の検討、実施	①職員の不安の把握継続と方法の見直し ②職員アンケートの結果に基づき対応策検討

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画
サービスの質と量の維持・向上	マニュアルの作成・更新と有効的な活用	エルダー制度と連携したマニュアルの活用	①マニュアルの活用方法の見直し
		支援の標準化を目指したマニュアルの活用、見直し	①マニュアルの更新 ②マニュアルの活用方法及び更新方法の検討と実施
	医務機能の維持・強化	医務ミーティングの開催	①医務ミーティングの定期開催（月 1 回）
		ひょうごデイ全体での協働体制の確立	①ひょうごデイサービス全体での医務協働体制の検討、準備、試行
	利用者支援の再考	送迎・入浴等支援業務の見直し	①各セクションの業務課題抽出及び見直し ②ひょうごデイ全体での相互協力体制の検討

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画	
収支バランスの健全化	日中活動利用を視野に入れたアクセスひょうごの計画的な受け入れ	ひょうごデイ、他事業所利用者の日中利用促進とそのため受け入れ調整	①将来を見据えての短期入所利用を推進 ②計画的な受け入れによる日中活動プラス利用促進	
	利用率安定のための待機者確保	受け入れ可能になった時に備えた待機者確保、待機者のスポット利用のお誘い	①待機者リストの作成 ②関係機関との連携による新規利用者の発掘	
	一日の受け入れ人数増のための事業所内整備	受け入れ可能人数増のための事業所内整備	①障害特性に合わせた快適な環境の整備	
	コスト削減を含めた収支バランス健全化の全体での周知徹底		コスト削減	①削減項目の見直し ②見直した削減項目の現状把握及び着手
			利用者費用負担の伴うオプションサービスの実施	①オプションサービスの項目検討及び立案

(5) 地域の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画
ニーズを把握 地域へのアピールと	地域との交流からニーズを把握	交流プログラムの企画・作成・実施	①地域交流プログラム計画の検討及び実施 ②「トライやる・ウィーク」の受け入れ

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2021 年度計画
ワークライフバランス向上への取り組み	業務プロセスの見直しと構築	業務内容の洗い出し、業務分担の見直し	①送迎業務の見直し ②業務分担の見直し
		パソコン共有データファイルの整理	①データファイルの整理 ②整理方法のルール策定
		ICT化等による環境の整備	①情報収集 ②導入機器検討、予算化
	有給休暇取得方法の見直し	有給休暇取得状況の把握と計画的取得	①希望有休の調査 ②計画付与での勤務シフト作成
リスクマネジメントの強化	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	①マニュアルの更新 ②年末年始緊急受け入れ体制の整備
	夜間緊急時の対応の整備	通常夜間緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施
		一人夜勤緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事団
施設名 神戸市立自立センターひょうご
施設長 大森 陽子

神戸市立自立センターひょうごの基本方針

1. 利用者の人権を尊重し、『心の声』に耳を傾け、寄り添い、共に歩みます。
2. 利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支えるため、『福祉のプロ』集団として、個々の専門性を高め、チームワークによる質の高いサービス提供を目指します。
3. 地域の社会資源として、諸機関・諸団体と連携し、地域福祉の向上に努めます。

2021 年度の事業計画について

第4期中期計画の2年目となる今年度、特に力を入れて取り組んでいくことの一つは、職員の支援力の向上です。加齢による身体機能の低下等が見られるご利用者も増えてきている中、基本的・個別的な介護技術を学ぶ機会を持ち、安全な支援を行えるようにします。また、事例検討会を通じて、ストレングスの視点を持ってご利用者の再アセスメントを行う手法等を学び、支援の質を高めることで、ご利用者のQOLの向上に繋げていきます。

次に、ご利用者・ご家族の将来へのイメージを明確にしていく取り組みです。ご利用者・ご家族ともに年齢を重ね、将来の生活への不安を感じておられる方も多くなっています。これについては、将来を前向きに考えるきっかけとなるような「未来ノート」の様式を作成し、今後ご家族に活用していただけるよう、準備を進めます。また、ご家族向けの勉強会の開催、情報共有、意見交換など、将来の生活をイメージする機会を作っていきます。

そして、職員のリスクマネジメントの意識向上と事故の減少に向けた取り組みにも力を入れていきたいと思えます。リスクを予測・回避できる力を高めていくとともに、事故が起こった後の振り返りをしっかりと行い、再発防止の仕組みを強化していきます。

施設の大規模改修については、指定管理元である神戸市と協議をしていますが、コスト面等の事情により、実現にはかなりの時間を要すると思われれます。施設でできることとして、満足度調査でも要望があがっていた和室スペースの改修を行い、ご利用者が安全・快適に過ごせる空間を作っていきます。

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延により、日々の支援やサービス提供においても、感染防止を最優先に考えることが重要となっています。そういった中で迎える今年度ですが、「利用者・家族の今日と明日を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります」というビジョン実現に向けて、私たちにできることを考え、実行していきます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業（第2種社会福祉事業）	生活介護	60名	知的障害者
介護保険事業（第2種社会福祉事業）	共生型 通所介護		高齢者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

利用者・家族の今日と明日を、笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
基本理念に沿った支援の実施	基本理念の勉強会の実施	①基本理念勉強会の実施（年4回：5、8、11、2月） ②勉強会ごとに振り返りシートの記入 ③講師との打合せ
	基本理念の各項目についてのディスカッション	①基本理念の各項目についてのディスカッションの実施（年2回：9、12月） ②内部研修の実施（10月）
	神戸聖隷ハンドブックの輪読	①毎週月曜日に輪読を実施

(2) 人材育成・定着の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
支援力・専門性を高め合える職員集団となる	自立センター標準マニュアルに沿った支援の実施	①マニュアルに沿った支援の実施（移動） ②基本的・個別的な介護技術の勉強会の開催
	新着職員の育成と定着	①エルダー制度の継続 ②エルダー会議の開催（年4回） ③リニューアルした内容での新着職員研修の実施
	事例検討会の開催	①事例検討会の開催（年2回：9、2月） ②事例作成、支援経過の報告と共有
	外部研修受講の共有	①研修受講後、朝礼での研修概要報告（全研修対象） ②職員会議での研修報告（ピックアップした研修対象）

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
利用者のライフステージを考えた支援の実施	日中活動の充実(満足感のあるサービスを提供する)	①現在の活動の実施(レパトリーを増やす)
	利用者・家族の将来のイメージを明確にする	①昨年度に集めた情報の整理 ②昨年度に実施したアンケート結果をご家族と共有 ③成年後見制度についてのご家族向け研修会の開催 ④「未来ノート」の様式の完成
	虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施	①虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施(年2回)

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
安定的な経営への取り組み	新規利用者の獲得	①新規利用者受け入れ ②見学・体験実習の積極的な受け入れ ③特別支援学校、相談支援事業所との連携強化 ④ホームページを通じた空き情報等の情報発信
	祝日も含めた魅力ある活動の提供	①年間プログラムの策定と実施
ハード面の整備	大規模改修に向けた神戸市へのアプローチ	①神戸市との協議 ②和室の改修の実施
	・活動スペースの見直し・整備 ・施設内美化活動	①活動スペースの見直し・整備 ②施設内美化活動の実施(年4回)

(5) 地域の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
地域交流行事の継続	よつば寄席の開催	①よつば寄席の開催（年1回:7月） ②感染対策を徹底した開催 ③寄席と共に行うイベントの検討
	地域清掃の実施	①月1回の地域清掃の実施 ②ポスター掲示 ③施設名等の印字入りビブス着用での清掃

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
働きがいと働きやすさの両立	有給休暇の取得促進計画の策定	①有給休暇取得促進計画の策定・実施
	業務改善の取り組み	①業務改善の取り組み
	ワークライフバランスの取り組み	①ワークライフバランスが実現できる職場風土づくり
リスク管理意識の向上	事故・ヒヤリハットの検証と再発防止システムの確立	①事故・ヒヤリハットの再発防止システムの確立
	リスクマネジメントの意識向上	①リスクマネジメントを意識した支援の実施 ②リスク管理に対する意識度確認表の作成 ③リスクマネジメント研修の開催

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 ワークセンターわかまつ
施設長 木南 仁

ワークセンターわかまつの基本方針

1. 法人の基本理念に基づき、利用者のニーズに即した支援を行います。
2. 個別支援計画に基づき、人権を尊重し支援を行います。
3. 就労継続支援施設として、働く喜び、社会人としての役割などを伝えていきます。
4. “人間力づくり” “こころづくり” “ものづくり” ができるよう支援します。

2021 年度の事業計画について

昨年度は新型コロナウイルスによる影響を大きく受け、「まつぼっくり」は約1か月半の間、休業せざるを得ませんでした。営業再開後も大正筋商店街のイベント等は行われていませんが、ソーシャルディスタンスを保ちながら「まつぼっくり」(カフェ)の営業を続けています。この間試行してきたワークセンターわかまつで製造した焼きたてパンの販売日も増やしていきます。月に1回ですが土曜日にも営業していきます。そして、アンテナショップの役割として、法人内の自主生産品等の販売も積極的に行い、公益的取り組みとして「まつぼっくり」を中心に「認知症カフェ」を開設し、これまで以上に地域の方にご利用していただけるよう展開していきます。バザーなど外部での販売ができないことも予想できるため、直接お客様に販売できる機会を大切にし、注文での販売にも十分にお応えできる様にしていきます。

一方、下請等の作業の受注も、コロナ禍ということもあり非常に厳しい状態が続いています。ご利用者一人当たりの作業工賃を何とかこれまでの水準で支給できるよう作業内容の見直し等の取り組みを行います。

日中の作業活動を提供するだけでなく、高齢化、障がいの重度化により様々な困難が生じているご利用者、ご家族に対しても総合的に支援を行っていきます。また、ご利用者の意見発信の場である利用者自治会の取り組みを支援し、利用者満足度調査は継続して実施していきます。

人材育成として、基本理念が浸透するよう理念研修の実施のほか、日々の聖書朗読や神戸聖隷ハンドブックの輪読などを継続して行います。また「より良い支援」が実施できるよう内部研修を実施し、外部研修の受講も勧めていきます。

ご利用者だけでなく職員が安心・安全に活動できるようマニュアル等の更新や学習会も取り入れていきます。そして職員がいきいきと働くことができるようワークライフバランスを整え、ノー残業デイ(水曜日)の継続と有給消化率の向上に努めます。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	就労継続支援B型	40名	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

- ・地域にじわっと浸透する。
- ・作業内容が充実する。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
浸透 キリスト教福祉の	キリスト教福祉を学ぶ機会の設定 (理念理解定着部会との連動)	①理念研修の実施 講師を理事長に依頼 神戸聖隷ハンドブックの輪読 ②理念部会との連動 キリスト教福祉基礎研修受講、他法人研修への参加

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
取材 組 み の 長 期 的 人	実習の積極的受け入れ	①保育実習、介護等体験実習、福祉体験学習等の積極的受け入れ (随時)
職員の スキル アップ	内部研修の実施や外部研修への参加	①内部研修の実施 講師に依頼し内部研修の実施 事例検討会の実施 ②外部研修への参加 市民福祉大学等の受講

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
働く 喜び の 提 供	安定した作業支援の提供	①目標工賃支払額5,000千円/年(利用者39名) 神戸地区施設・事業所への注文販売の継続 まっぼっくりでのパン販売の日数増の実施 下請作業内容(企業)の検討、移行
利用者 ニーズ に沿 っ た サ ー ビ ス の 提 供	生活ニーズ支援、社会参加支援の提供	①利用者との面談(2回/年)実施 モニタリングの確実な実施。 再アセスメントの実施。 利用者・家族の高齢化への対応(取り組み) (勉強会の実施[家族向け・職員向け])

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
的に施 な伴設 修う老 繕計画朽 画化	修繕工事の実施	①工事内容の検討（費用計算・予算計画） 作業室の床面の改装工事 利用者女子更衣室のクロスの張替え
取り組 み の 組 み	年間営業日と利用率の管理	①訓練等給付費の月毎管理、販売等による休日稼働の実施 気象警報等発令時の対応方法の変更 利用者自治会の隔月実施、社会活動毎月実施

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
催・参 加 の 開	大正筋商店街が企画するイベントに積極的に参加	①随時、企画に参加 大正筋商店街、株式会社くにつか等の企画イベント
	イベントの企画・開催(部会との連携)	①認知症カフェの実施
の活 用 の ジ	ホームページの定期更新 (イベント企画時の広報活動)	①ホームページの定期更新 まつぼっくりの HP の更新(認知症カフェのアピール)

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021 年度計画
への事 対故・ 準災 備害 時	大災害発生時の対応準備	①新型コロナに対応したマニュアルへの変更
	防犯対策の整備	①防犯対策学習会の実施（1回/年）
労務、 役割の 分散	有給消化率のUP(取得率50%以下の職員)	①2020年度取得日数より1日増（取得率50%以下の職員）
	ノー残業デイの週2回実施	①ノー残業デイの週2回取得に向けた検討・試行 業務を行う職員に業務偏りがないか確認し、業務の見直しを実施

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 せいれいやさかだい
施設長 岩井 誠一

せいれいやさかだいの基本方針

1. 基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 小集団において一人一人が主体性を発揮し自己表現できる集団作りを目指します。
3. 企業内事業所として与えられた仕事に責任を持って取り組み、社会参加の喜びを提供します。
4. 生活介護事業（友が丘事業所）のプログラムのオープン活用と地域に開かれたサービス提供を目指します。
5. 親なき後の安心、安全な生活実現を目指します。

2021 年度の事業計画について

2020 年度は新型コロナウイルスの影響を受け、目標達成に向けた具体的な推進策を行えず、試行錯誤する 1 年となりました。今年度はコロナ禍での取り組みを想定し、利用者・職員の安心、安全に配慮を行いつつ第 4 期中期計画に掲げた「生きがい・やりがい・働きたい」の実現を目指します。

QOL の視点より、利用者の発言は支援者にとって新しい発見をもたらし、支援を見直す上で貴重な機会と位置付け、昨年度発足した利用者自治会活動（ぎんが会）について積極的なサポートを行います。活気ある活動となるよう利用者の主体性を発揮できる支援を行って参ります。

次に企業内事業所としてシミズ・林タオルは、経済状況が厳しい中でも作業提供をいただきました。期待に応え、責任を果たしてより一層の生産性向上・品質の向上に努め、信頼関係の構築を図ります。また、同時に利用者の満足度を高められるよう、作業工賃アップに向けてチャレンジできる様に新たな清掃・他企業からの下請け作業や農福連携について情報収集と実践に繋げて行きます。友が丘事業所においては高齢化・重度化が進んだ利用者支援の方法について法人内理学療法士や、研修機関を招き学習会を実施し、個々の状態に適した支援の充足を図ります。

地域貢献の視点として、北須磨団地自治会・児童館・民生委員と築いてきた関係性を大切に育み、地域住民との交流機会であるサロン活動・寿喫茶・卓球等を含め、自治会行事へ積極的に参加し、また清掃活動と挨拶運動を実施して住民の皆さんと地域を盛り上げて参ります。

引き続き就労継続支援 B 型事業所は社会的孤立状態にある方や就労に対する思いをお持ちの方の受け入れ態勢を作り、各関係機関へ働きかけ、社会参加及び就労に向けた支援を継続して行います。

人材確保育成の視点については自閉症スペクトラム障害の研修会（年 2 回）を企画し、支援力向上の取り組みを継続します。

通所される利用者一人ひとりの生活と将来像に寄り添い、尊厳をもって理念の実践に取り組み、利用者と職員が共に成長する集団を目指します。

1. 事業概要

種 別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	就労支援継続B型	15名	知的障害者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	生活介護	25名	知的障害者

2. 第4期中期計画と推進策

第4期中期計画のビジョン

「利用者の生きがい・やりがい・働きがいを叶える支援と居場所づくり」を目指します。

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
てキ 考リ えス るキ 機ス 会ト を持キ つ社 にキ 触レ れ	利用者家族の悩みに積極的な支援を実施	①利用者及びご家庭の悩みに対し、積極的支援の提供 ②提供状況について見直しと共有
	学習会・施設見学を通し、キリスト教福祉に触れる機会を確保	①法人内事業所見学の実施（臨時職員全員対象） ②キリスト教基礎研修参加 ③事業所において竹内牧師を講師としたキリスト教講座の実施（3回/年）
る活 用念 ・ハ 接ン 遇ド のブ 更ク な（ 理	唱和・読み合わせに留まらず働きを考える学びの実施	①理念の唱和（毎月曜日） ②接遇のしおり、ハンドブックの読み合わせの実施（毎日朝礼時、職員会議） ③理念、接遇についての研修実施 ④研修の見直し

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
向 上福 祉 専 門 職 と し て の ス キ ル （ 知 識 ・ 支 援 力 ）	職員個々のスキルに応じた研修計画立案と自己研鑽の推進（介護技術・就労・地域生活・資格等）	①研修計画の立案と調整 ・階級、スキルに応じた研修への参加及び調整 ・研修機会に応じて参加 ②市民福祉大学等の研修案内の情報提供と受講推進（通年）
	障害理解と専門的支援の実践（ABA研修会等の内部研修）	①上野中学教諭の協力のもと障害理解に必要な研修継続（2回/年 8月、12月） ②研修内容の見直し ③研修受講者による情報共有、支援報告の実施
	研修報告会の実施	①研修受講者による研修内容の報告 ・職員会議にて実施

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
職員の課題解決能力の向上	課題解決に向けた定期的な進捗管理と支援振り返りの実施	①一般職以上には効果課題の進捗を含む面接実施。臨時、パート職は仕事についての聞き取り等実施 (2回/年 6月、12月) ②課題に対する支援の振り返りを会議にて実施。(随時)
	事業所間の課題理解と支援交流	①3事業所間の利用者・職員の交流活動の検討と実施 (毎月/職員会議) ②各事業所の課題について報告と検討 (毎月/職員会議) ③活動内容の見直し
	支援力に不安を持つ者・実習生らへのより丁寧な支援の実施	①支援員の抱える課題に積極的なアプローチの実施 (グループミーティング、支援会議、ケア会議：随時) ②実習生の実習課題に丁寧な支援、働きかけ(随時) ③アプローチの見直しと情報共有、実施

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
作業・生活・活動環境の改善	各事業所の利便性の向上	①改善等の執行状況確認(2回/年 4月、9月) ・シミズ事業所：生活空間の快適性 ・林タオル事業所：作業効率・衛生面を重視した動線の確認 ・友が丘事業所：高齢、重度化対策 ②各事業所の改修改善ニーズの収集、試算と検討による提案を実施(状況に応じて)
	社会を意識した活動提供	①自治会運営内容の見直し(1回/年) ②自治会運営方法について利用者、職員間で共有 ③自治会運営を継続的に行う勉強会の実施(1回/年) ④定例会の実施(1回/月) ⑤生活を送る上で必要となるマナー勉強会の実施、見直し(2回/年)
高工賃獲得を目指す新たな取り組みの検討	事業所外ワーク(作業)の確保	①作業の確保(通年) ②農家支援の定着(1回/年 6月) ③事業所近隣農家訪問(通年) ④事業所近隣企業訪問(通年) ⑤農福連携を行っている事業所見学、及び関係者からの情報収集(随時)

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
8050への対応	独居者・高齢化家族の成年後見制度活用希望者への支援	①制度利用、及び活用の促進 ・成年後見制度に関する用紙の配付 (2回/年 4月、9月) ・希望に応じて研修会の実施
	関係機関との支援強化(総合相談センター、支援センター、福祉事務所等)	①関係機関と積極的に関わりを持ち、利用者の支援状況把握と支援関係を強化(状況に応じて) ・利用者家族構成の再確認(1回/年 4月) ・家族へのアプローチ(2回/年 8月、2月:個別支援計画時)

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
活動拠点の堅持と関係づくり	3事業所活動拠点の継続	①3事業所の関係者(企業、自治会)との関係維持 ②物件情報等収集を継続
	企業、近隣との関係づくり	①各事業所における関係企業、自治会関係人物への訪問 (1回/月) ②行事等への参加 <北須磨団地自治会・地域イベント> 5月:友愛まつり、支え愛・助け愛学習会 8月:ふるさと祭り 10月:運動会 12月:クリスマス会 他 ③関係者からの要望(クレーム含む)に迅速に対応
ある企業内事業所内での脱却	高額工賃支給による給付費収入増を目指す	①外部作業の試験的取り組み繰り返し検討 6月:淡路島玉ねぎ作業 9月:事業所近隣からの受注作業 ②作業実施による収入と工賃配分金額の検証 (6月、10月、2月)
魅力ある事業所づくり	作業及び活動の取り組み状況を可視化し、利用者に達成感を提供	①月々の売り上げを視覚化する ・工賃をグラフ化して作業室に掲示(1回/月 更新) ②年間予定と月予定の活動内容を確認 ・画像等で内容を保存し、掲示
	事業所の魅力をアピール	①ミニ広報誌<友が丘掲示用>編集と発行(年間6回) ②広報誌の発行<外部用>(年間2回) ③Facebookの更新(年間6回)

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
地域行事、活動への積極的参加と協力の実施	地域行事・活動等への参加・準備・協力を積極的に取り組む (行事、活動、清掃活動含む)	①支援者は地域行事へ積極的に参加し、地域との関係性を構築 ・友愛まつり（北須磨）、ふる里まつり（北須磨） ②地域行事、清掃活動に利用者参加の推進 ・寿喫茶（北須磨）、すくすく喫茶（北須磨）、さくら喫茶（神の谷） ・友が丘交通公園・広場、3事業所周辺、北須磨団地前バス停（清掃活動）
	地域コミュニティーの活用と関係構築	①地域コミュニティー施設の活用を通して関係者との関係性を向上 ・友が丘地域福祉センター ・老人いこいの家 ②新たな活用方法等について提案と情報発信
	地域高齢者の生活支援要請を活動に反映	①近隣高齢者のニーズ把握を実施 ・民生委員の会合に出席（2回/年） ②北須磨地域のウォーキングを兼ねた地域パトロールを実施 ・パトロール用ベストの購入 ・活動実施が明確になるようにベストの着用
関連企業を対象とした奉仕活動の実施	林タオル販売、シミズに対し除草・掃き掃除などの奉仕活動を実施し、更に周辺企業へアピール	①除草、落ち葉掃き、ゴミ拾い等奉仕活動の提供 (状況に応じて奉仕月間を設定) ②実施内容の見直し

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
労務環境への配慮と改善	日常的な関り（挨拶・労い）を大切にした関係づくりと労務配慮の実践	①訪問、支援ヘルプ等を通して職員との信頼関係と声掛けによる関係づくり（随時） ②労務状態（体調、家族看護、介護等）を早期に把握し、負担軽減等を実施（随時）
労務へのモチベーション向上	労務状況の改善と効率的な働き方の提供	①行事、活動の計画実施を支援し労いと感想を共有（随時） ②収入を含めた効率的な働き方の提案（随時）

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
南海トラフ大震災をはじめとする 災害への対応と備え	福祉避難場所としての役割	①運用マニュアルの整備
	訓練の実施	①訓練計画の作成と実施（2回/年 5月 10月） ②訓練内容の見直し（2回/年 5月 10月）
	備蓄品の確認と補充	①備蓄品管理リストの作成（6月） ②備蓄品のチェックと補充、追加品目の検討（6月） ③期限切れ備蓄品の活用方法の検討（7月） ④地域貢献推進部会との連携（備蓄品情報の提供）

2021 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームのぞみ
管理者 岩井 誠一

グループホームのぞみの基本方針

1. 一人ひとりの基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 利用者の障害特性を理解し「その人らしい暮らし」を共に考え支援します。
3. 一人ひとりが主体性を発揮し、生活の場面で生きがいを感じられるよう支援します。
4. 安心・安全な生活が送れる環境づくりと衛生面の提供を行います。
5. 地域の皆さんとの交流機会を求め、利用者の積極的な関わりと参加に努め地域に開かれた関係づくりをめざします。

グループホームのぞみは、重度の知的障害者が安心・安全・健康的に生活できるよう、ご利用者一人ひとりにしっかりと寄り添い、その人らしい生活の実現を支援します。それによりご家族の将来への不安を少しでも和らげることに繋がるサービスを提供します。

ご利用者の受け入れ前に、ホームの雰囲気作りや職員育成研修を兼ねて、ご本人の日中活動事業所や自宅訪問してアセスメントを実施、ご家族の思いもお聞きして支援に反映します。

日々の生活の中で、ご利用者の自立につながる個別計画を実施します。できることにより小さな達成感を感じてもらえるように心掛け、支援が集中する時間には職員配置を分厚くして、ご利用者に居心地の良い場所となるよう配慮します。

また、日中活動先・ご家族との連携を密にして、ご本人の気持ちの把握と理解に努めて、その人らしい個人の生活、仲間との時間が送れるよう工夫します。他関係者や地域の皆様との連携や交流機会を構築し、共に考え、関わりながら支援してまいります。

1. 事業概要

種別	事業名	定員	主たる対象者
障害福祉サービス事業(第2種社会福祉事業)	共同生活援助	8名	知的障害者

2. 主な計画と推進策

(1) 理念の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
理 念	基本理念の浸透	①基本理念の掲示 ②会議前の理念唱和 ③神戸聖隷ハンドブックの輪読

(2) 人材育成の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
職 員 育 成	専門性の向上	①スキル獲得のため外部研修へ参加 ②他グループホームとの交流機会を持つ
	事業所内研修の実施	①開設前の職員育成研修の実施 ②世話人・支援員への内部研修の実施 ③法人内研修への積極的な参加 ④外部研修への参加

(3) QOL の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
QOL	健康管理	①毎日の健康状態(体重・血圧)を把握し、必要に応じ医療機関と連携を図る
	マニュアルの整備	①業務マニュアルを整備し、引継ぎが容易かつ効果的に実施できるよう整える ②本人・ご家族からの支援見直し・変更への迅速な対応 ③支援会議の実施と支援内容の検証
	余暇の充実	①生活の場であることを大切にし、一人ひとりに応じた余暇を提案
	防災対策	①年2回の避難訓練を実施 ②感染症予防の徹底と備えを実施 ③自然災害時に備えた備蓄品の確保

(4) 経営強化の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
経 営	利用率の安定	①365 日開所し利用率 90%を目指す
	バックアップ施設の体制整備	①せいいいやさかだいの日中及び夜間緊急時 支援体制を整備

(5) 地域貢献の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
地 域 貢 献	地域の清掃活動への参加	①年 2 回の地域清掃に参加、グループホーム の存在をアピール
	地域との連携	①地域コミュニティーの利用・行事参加を積 極的に行う

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2021 年度計画
人 事 労 務	虐待防止・人権擁護の意識を持 った職員育成	①職員会議を月 1 回実施、支援上の課題・対 応・業務内容について共有 ②セルフチェックの実施 ③成年後見制度の活用促進

2021年度 事業計画別表 1(事業目標)

※稼働日数が協定等で定められている事業以外は
法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人	
		利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
		2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込
特養 平生園	60	21,243	21,438	97.0	97.9		
〃 さくらの苑	29	10,263	10,448	97.0	98.7		
GH わらしべ	18	6,439	6,497	98.0	98.9		
入所 恵生園	60	21,446	20,730	97.9	94.7	0	0
〃 真生園	60	21,481	20,739	98.1	94.7	0	0
〃 神戸愛生園	50	17,337	16,714	95.0	91.6	0	1
〃 神戸明生園	70	21,546	22,072	84.3	86.4	1	2
GH グループホームもみの木	5	1,712	1,715	93.8	94.0		
〃 グループホームかしの木	7	2,459	2,295	96.2	89.8		
〃 グループホームかしの木Ⅱ	5	1,694	1,436	92.8	78.7		
〃 めぐみ	6	1,172	0	53.5	0.0		
〃 せいれいやまて(4～5月)	7	381	2,123	89.2	83.1		
〃 せいれいやまて(6～3月)	10	2,618	-	86.1	-		
〃 たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,721	1,612	94.3	88.3		
〃 南落合	5	1,602	1,584	87.8	86.8		
〃 アリエッタ北須磨	10	2,978	2,894	81.6	79.3		
〃 のぞみ	8	2,488	0	85.2	0.0		
〃 きたすま	5	1,765	1,755	96.7	96.2		
〃 みなみたもん	5	1,641	1,583	89.9	86.7		
〃 ふくだ	10	3,254	3,258	89.2	89.3		

61日 4～5月
304日 6～3月

短期入所支援事業	定員数	単位＝人		単位＝%	
		利用延べ人数		利用率①	
		2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込
高齢 さくらの苑	10	3,467	3,348	95.0	91.7
障害 恵生園	3	336	567	30.7	51.8
〃 真生園	4	210	321	14.4	22.0
〃 神戸愛生園	5	730	460	40.0	25.2
〃 神戸明生園	10	1,853	1,788	50.8	49.0
〃 アクシスひょうご	6	2,313	2,079	105.6	94.9

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%	
		利用延べ人数		利用率②	
		2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込
通所 さくらの苑	18	4,797	4,954	86.0	88.8
〃 デイセンターひょうご(共生型)	25	717	537	10.7	8.0
〃 神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	101	92	0.6	0.6
生活 恵生園	60	16,333	15,758	101.2	97.6
〃 真生園	60	15,912	15,637	98.6	96.9
〃 神戸愛生園	60	15,289	15,079	94.7	93.4
〃 神戸聖生園	60	14,267	12,944	88.4	74.0
〃 せいれいやさかだい	25	5,882	5,340	87.5	79.4
〃 神戸光生園	54	12,840	12,234	88.4	84.2
〃 神戸明生園	80	19,331	19,623	89.8	91.2
〃 デイセンターひょうご(多機能型)	25	4,741	4,284	70.5	63.7
〃 自立センターひょうご	60	13,114	11,954	81.3	74.1
〃 トゥモロー	8	1,225	1,182	63.8	61.3
〃 インクルージョンひょうご	20	2,835	2,649	52.7	49.2
日中 真生園	5	12	5	0.7	0.3
〃 神戸明生園	10	14	19	0.4	0.5
〃 アクシスひょうご	6	36	38	1.6	1.7
児童 すまいる	20	3,195	3,068	69.2	68.2
〃 らみい	10	1,851	1,890	72.0	73.3
〃 エスポワールこじか	10	1,948	2,028	84.0	87.4
〃 めぐみ	10	1,841	0	68.4	0.0

2021年度 2020年度
年間稼働日数 310日 310日

←2020年度定員65

2021年度 2020年度
市との協定日数 240日 241日

2021年度 2020年度
市との協定日数 231日 225日
市との協定日数 257日 258日
市との協定日数 232日 232日

単位＝人

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)		定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人		就労定着支援	
			利用延べ人数		利用率②		就職者数		利用延べ人数	
			2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込
移行	和生園	6	1,547	1,436	95.8	89.0	3	1	24	13
"	神戸光生園	6	1,009	921	62.5	57.1	2	1	20	30
"	ワークセンターひょうご	30	3,642	4,697	45.1	58.2	13	14	381	326
相談	しごとサポート中部	—	—	—	—	—	90	85	—	—
"	神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)		定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝円		単位＝円	
			利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
			2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込	2021年度 目標	2020年度 実績見込
就B	和生園	34	8,935	8,647	97.7	94.5	112	105	15,000	14,160
"	せいれいやさかだい	15	3,317	2,790	82.2	69.1	50	42	6,000	5,000
"	神戸友生園	40	8,439	7,223	78.4	67.1	260	220	11,200	10,192
"	神戸光生園	30	6,885	6,643	85.3	82.3	126	131	12,650	13,136
"	デイセンターひょうご	10	2,570	2,819	95.5	104.8	100	115	1,900	2,039
"	ワークセンターわかまつ	40	8,680	8,739	80.7	81.2	109	114	10,148	10,037

単位＝件

居宅介護支援・相談支援		支援内容・対象	支援件数	
			2021年度 目標	2020年度 実績見込
居宅	居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,140	1,160
障害	びあほくたん	障害者	600	529
"	発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	400	400
"	エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	213	221
"	恵生園相談支援事業所	障害者	171	196
"	神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	8,000	7,000
"	しごとサポート中部	障害者	—	—
"	ひょうご障害者地域生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	5,800	6,050
"	神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	1,050	1,005
"	すま障害者地域生活支援センター	相談・緊急対応	7,200	7,200
"	神戸聖隷総合相談センター	相談	646	638

単位＝件

生活援助・介護予防・職場開拓		項目	件数	
			2021年度 目標	2020年度 実績見込
障害	あったかブラザ(飲食店)	来店人数	6,450	4,395
"	障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	300	204

単位＝人

診療所		診療延べ人数	
		2021年度 目標	2020年度 実績見込
医療	真生園診療所	1,068	1,068
"	風クリニック	1,150	1,110
"	神戸愛生園診療所	3,000	3,000

	2021年度	2020年度
法定年間稼働日数	365日	365日
法定年間稼働日数	269日	269日

注意: 利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×365日)
②日中型事業	利用延べ人数÷{定員数×(365日-8日×12ヶ月)}

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合

利用率=1250人÷(20人×(23日+22日+23日))=91.9%

※ 「実績見込」値は、1月末ではなく、3月末までの見込値で記載すること

2021年度 事業計画別表 2(設備整備計画)

施設名	件数No.	件名	内容概略	整備完了時期 (予定)	事業金額 (千円)	サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
真生園	1	天井走行リフト更新(北寮)	天井走行リフトの老朽化及び修理困難機種の更新	2021年度中	6,292	生活介護	積立資産取崩収入		
真生園	2	日中活動機器の整備	日中活動の中で、視覚的な刺激や3Dマッピング画像によるリラクゼーション効果に期待し、ご利用者の精神的な安定を図る	2021年度中	1,870	生活介護	積立資産取崩収入		
平生園	1	平生園大規模改修工事	①給水設備更新(給水圧の改善) ②浴室改修、特殊浴槽更新・新設 ③内装及び居室内トイレ改修 ④各階食堂拡張及び居室配置変更等 ⑤玄関まわり及び来客用トイレ改善	2021年12月	149,845	平生園(特別養護老人ホーム)	人件費積立資産取崩収入・修繕積立資産取崩収入・減価償却積立資産取崩収入	借入金	100,000
平生園	2	2階特殊浴槽新規設置工事	大規模改修工事に伴い2階特殊浴槽を新規設置	2021年12月	2,489	平生園(特別養護老人ホーム)	減価償却積立資産取崩収入 1,521	ハローワーク人材確保支援等助成金/家族会寄附金	528/800
さくらの苑	1	介護保険記録システムソフト及びクラウドシステム5年間使用権 財務会計システム5年間使用権	2016年に導入した介護保険記録システム・クラウド化や財務会計システム使用権更新に伴う費用	2021年12月	1,375	さくらの苑(特養・短期入所・通所介護)	介護保険収入		
神戸愛生園	1	天井走行リフト3台	女性棟2機、男性棟1機 ご利用者の高齢・重度化による、職員負担軽減とご利用者の安全で安楽な介護の提供を図る	2021年度中	3,630	生活介護	介護給付費収入		
神戸光生園	1	新門扉設置及びフェンス更新工事	「ひかりマルシェ」(ミニバザー)に地域の方が立ち寄りやすいように開催場所により近い場所に新たに門扉を設置し、フェンスの高さを統一し安全性を高める	2021年9月	2,948	就労継続支援B型	修繕積立資産取崩収入	共同募金受配(予定)	2,470
神戸光生園	2	PC更新(3台)	旧機種のPCを3台更新する デスクトップ2台 ノートPC1台	2021年6月	326	生活介護	修繕積立資産取崩収入		
神戸明生園	1	「ほのぼの」ソフト使用権更新	「ほのぼの」ソフト使用権の更新	2021年4月	132	生活介護	運営資金		
神戸明生園	2	新館ボイラー入替	老朽化による新館ボイラーの入替	2021年6月	3,000	生活介護	減価償却積立金取り崩し		
神戸明生園	3	屋外キュービクル入替	老朽化による屋外キュービクルの入替	2021年6月	988	生活介護	減価償却積立金取り崩し		
神戸明生園	4	高圧ケーブル取替	老朽化による高圧ケーブル取替	2021年9月	2,800	生活介護	減価償却積立金取り崩し		
神戸明生園	5	眠りスキャン3台整備	利用者的高齢・重度化への安全対策	2022年3月	339	生活介護	減価償却積立金取り崩し	ロボット等導入支援事業	339
自立センターひょうご	1	和室改修工事	和室の畳が経年劣化により傷んでいることと衛生面での課題があるため、洗える畳と一部マットレスに改修をする	2021年10月	1,000	生活介護	移行時人件費積立金		
ワークセンターわかまつ	1	ノートパソコン3台	職員用のデスクトップパソコン3台(Windows7)からノートパソコン3台(Windows10)への入れ替え	2021年5月	306	就労継続支援B型	器具及び備品取得支出		
ワークセンターわかまつ	2	作業室床張替・更衣室クロス張替工事	作業室の床の張替え及び利用者女子更衣室の壁クロスの張替え工事	2021年10月	2,000	就労継続支援B型	修繕積立金取崩収入		
ワークセンターわかまつ	3	空調用冷温水ポンプ取替工事	冷暖房空調機の冷温水二次ポンプ(地下3階)取替工事	2021年7月	987	就労継続支援B型	修繕積立金取崩収入		

せいれいやさかだい	1	ウォシュレット(便座 3台)	シミズ事業所、友が丘事業所の利用者利便性を向上させるため、ウォシュレット便座の取り付けを行う	2021年6月	150	就B・生活介護	修繕費	按分(就B×0.25、生活×0.75)	
せいれいやさかだい	2	パソコン(3台)	Windows7の補償期間終了とWeb会議・研修等の常態化にい、PCの入替が必要となったため	2021年7月	250	就B・生活介護	事務消耗品費	按分(就B×0.25、生活×0.75)	
GHのぞみ	1	ノートPC	GHのぞみでの書類作成・事務処理等に使用するため	2021年4月	100	共同生活援助	事務消耗品費		
GHのぞみ	2	Timepro(勤怠管理システム)	GHのぞみの勤怠管理を行うため	2021年4月	90	共同生活援助	事務消耗品費		